

ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する
アンケート調査
報告書

平成31年3月

岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会

目 次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査数.....	1
3 調査対象.....	1
4 調査内容等.....	1
5 回収結果.....	1
6 調査結果の見方.....	1
II 調査結果.....	3
1 医療機関(病院・診療所)アンケート.....	3
2 薬局(保険薬局)アンケート.....	32
3 患者県民アンケート.....	49
4 自由記載欄に寄せられた主な意見.....	61

I 調査の概要

1 調査の目的

岡山県では、患者及び医療関係者が安心して後発医薬品を使用することができる環境整備を図るため、医療関係者並びに学識経験者・消費者等を構成員とする「岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会」を設置している。

本調査は、当協議会における検討資料とするため、病院・診療所、保険薬局及び患者に対して、後発医薬品に関するアンケートを実施したものである。

2 調査数

(1) 病院・診療所

(病院 161、診療所 1,343、歯科診療所 974)

(2) 薬局

(保険薬局 797)

(3) 患者

(薬局来局者 2,391)

3 調査対象

(1) 病院・診療所及び保険薬局については、「岡山県医療機能情報システム」に掲載されている施設のうち、休止中及び一般外来不可を除く全施設を対象とした。

(2) 患者については、調査対象保険薬局に来局した患者の中から、1薬局につき3名を無作為に抽出した。

(3) 調査対象の抽出については、地域、年齢が偏らないよう留意した。

4 調査内容等

(1) 調査方法 調査対象に対し、郵送等により調査票を配布し、返信用封筒により回収した。

(2) 調査期間 平成31年1月7日(月)～1月23日(水)

5 回収結果

対象		調査票発送数	有効調査票数	有効回収率
医療機関	病院	161	113	70.2%
	診療所	1,343	811	60.4%
	歯科診療所	974	456	46.8%
薬局	保険薬局	797	546	68.5%
患者県民	患者(薬局)	2,391	851	35.6%

6 調査結果の見方

- ・報告書中の「n=」とあるのはパーセントを計算するときの母数となるサンプル数(回答者数)を示しています。
- ・算出されたパーセントは小数第二位を四捨五入して、小数第一位までの表示としているため、その合計が必ずしも100.0%にならない場合もあります。また、複数回答で質問している調査項目においては、その合計は100.0%を超えます。

- ・自由記述は、原則として原文のままとしました。

II 調查結果

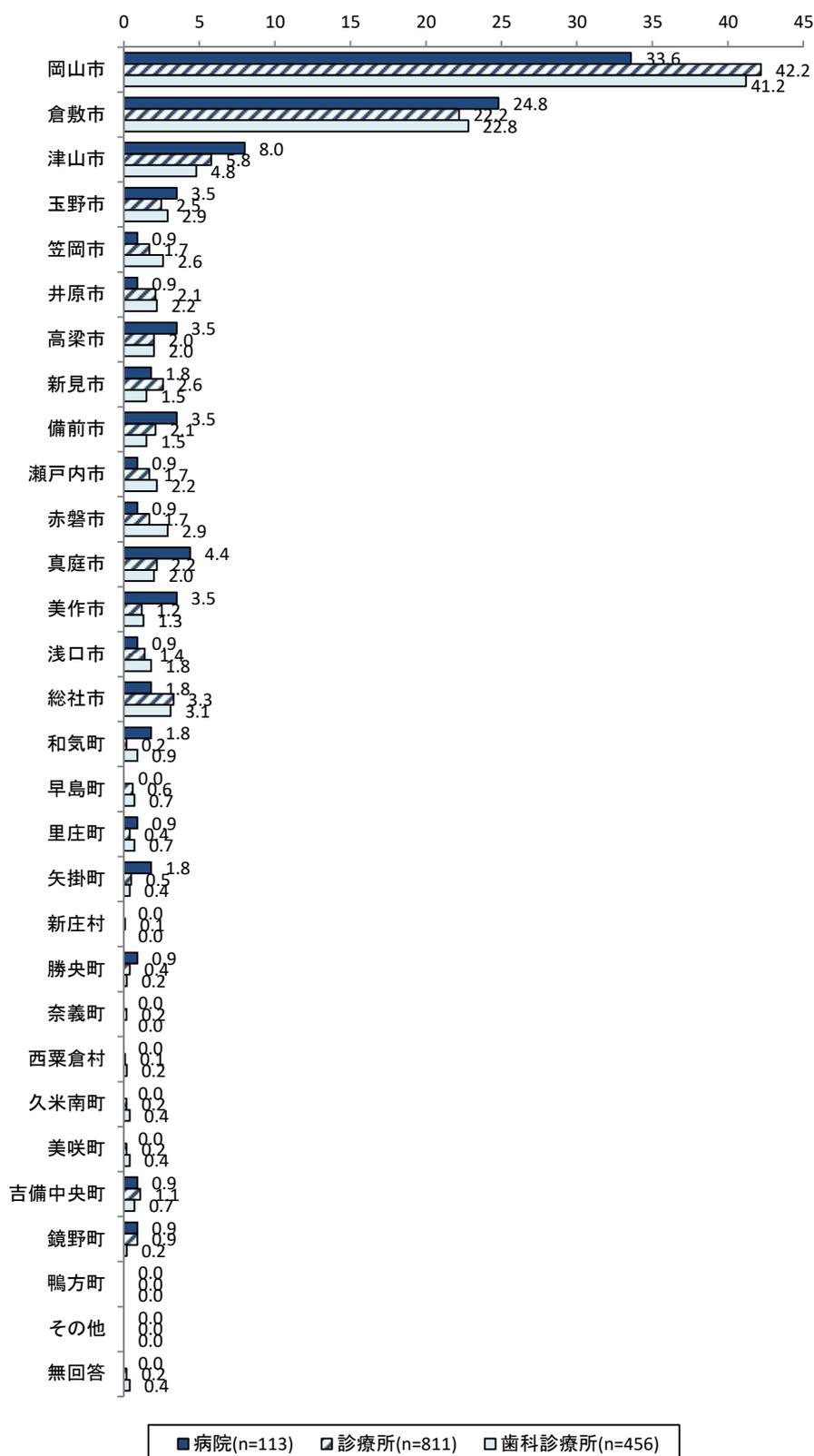
1. 医療機関（病院・診療所）アンケート

回答者について

問1 施設の所在地(市町村)

施設の所在地について、病院・歯科診療所・診療所とも、「岡山市」「倉敷市」の回答が高くなっている。特に「岡山市」の割合が診療所では42.2%、歯科診療所では41.2%と4割を超えている。

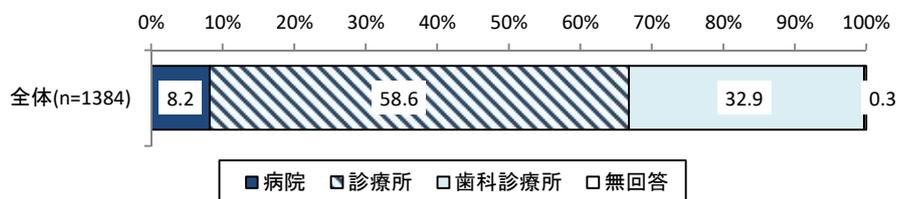
【全体 図】



問2 貴施設は次のどれに該当しますか。

施設について、「診療所」と回答した割合が 58.6%と最も高くなっている。次いで「歯科診療所」(32.9%)、「病院」(8.2%)の順となっている。

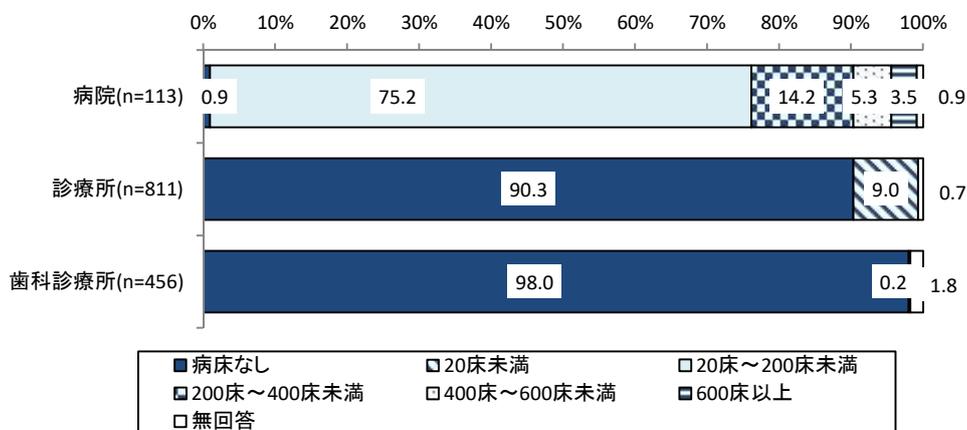
【全体 図】



問3 病床数はどれくらいですか。

病床数について、診療所・歯科診療所では「病床なし」と回答した割合が9割程度となっている。病院では、「20床～200床未満」と回答した割合が75.2%と最も高く、次いで「200床～400床未満」(14.2%)「400床～600床未満」(5.3%)の順となっている。

【全体 図】



問4 主たる診療科を1つ選んでください。

診療科について、病院では「内科」と回答した割合が 25.7%と最も高くなっている。次いで、「精神科」(8.8%)、「外科」(4.4%)の順となっている。診療所では「内科」と回答した割合が 48.7%と最も高く、「眼科」(7.0%)、「整形外科」(6.8%)の順となっている。

【全体 図】



問5 平成30年10月(1ヶ月)の院外処方箋の交付状況をお答えください。

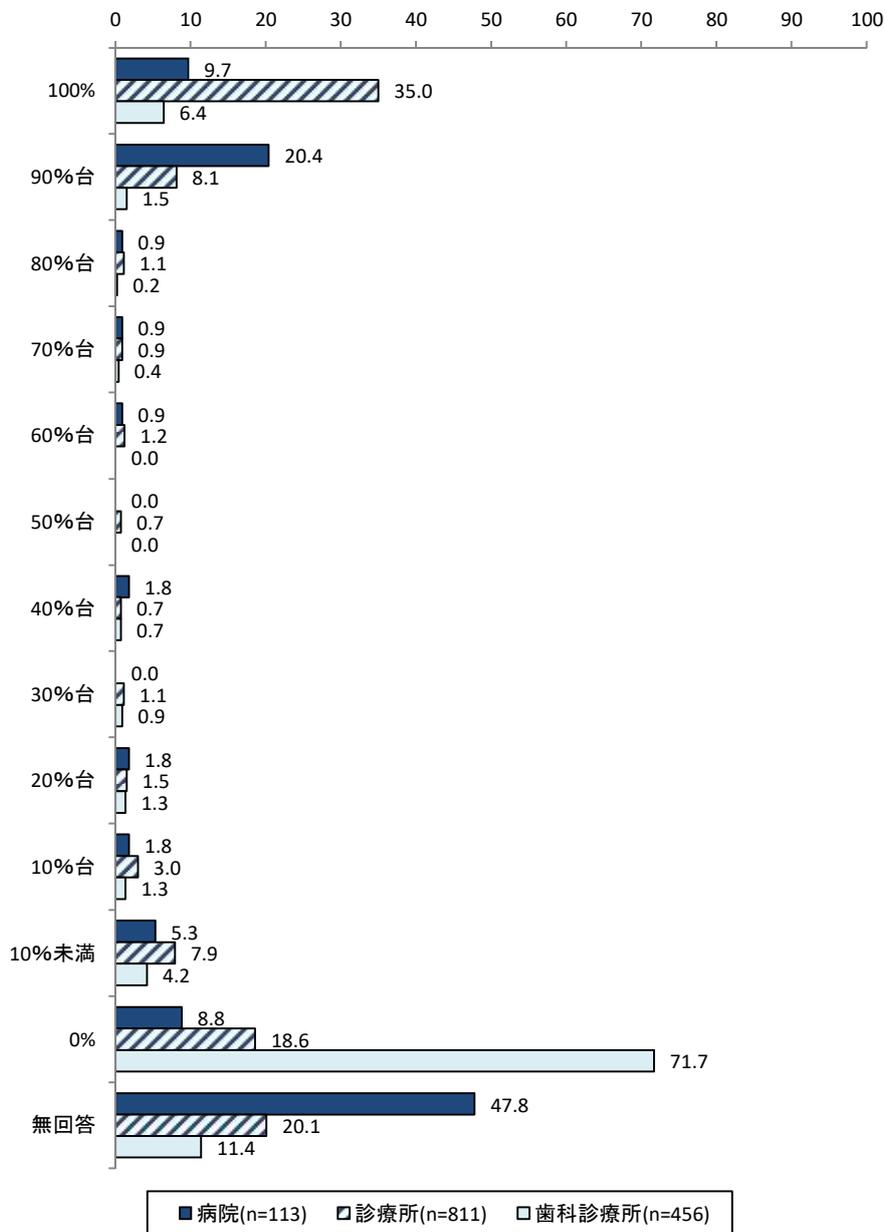
① 院外処方の割合 (処方箋枚数ベース)

院外処方箋の交付について、病院では「90%台」と回答した割合が20.4%と最も高くなっている。次いで、「100%」(9.7%)、「0%」(8.8%)の順となっている。

診療所では「100%」と回答した割合が35.0%と最も高く、次いで、「0%」(18.6%)、「90%台」(8.1%)の順となっている。

歯科診療所では「0%」と回答した割合が71.7%と最も高く、次いで、「100%」(6.4%)、「10%未満」(4.2%)の順となっている。

【全体 図】



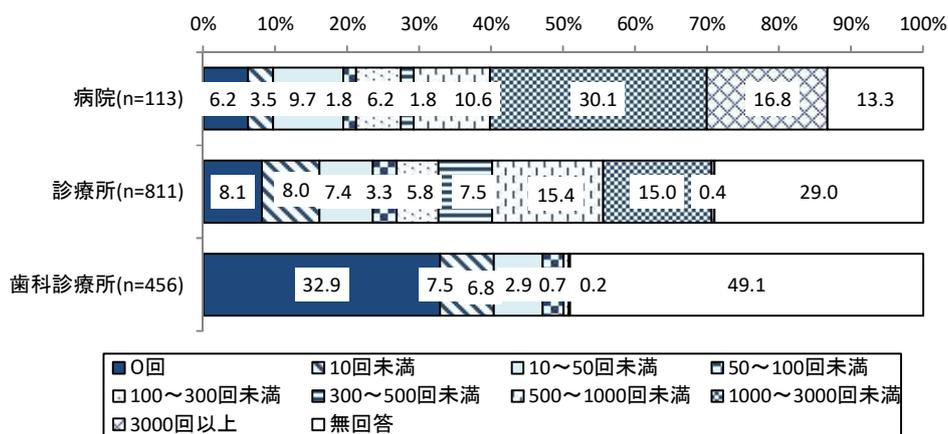
② 処方箋料の算定回数

処方箋料の算定回数について、病院では「1000～3000 回未満」と回答した割合が 30.1%と最も高くなっている。次いで、「3000 回以上」（16.8%）、「500～1000 回未満」（10.6%）の順となっている。

診療所では「500～1000 回未満」と回答した割合が 15.4%と最も高く、次いで、「1000 回～3000 回未満」（15.0%）、「0 回」（8.1%）の順となっている。

歯科診療所では、「0 回」と回答した割合が 32.9%と最も高く、次いで、「10 回未満」（7.5%）、「10～50 回未満」（6.8%）の順となっている。

【全体 図】



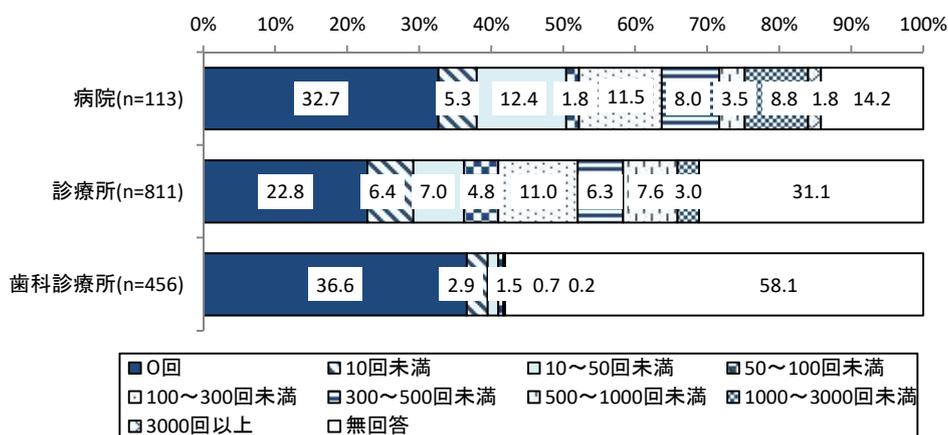
③ 一般名処方加算 1（6点）の算定回数

一般各処方可算 1（6点）については、病院では「0 回」と回答した割合が 32.7%と最も高くなっている。次いで、「10～50 回未満」（12.4%）、「100～300 回未満」（11.5%）の順となっている。

診療所では「0 回」と回答した割合が 22.8%と最も高く、次いで、「100～300 回未満」（11.0%）、「500～1000 回未満」（7.6%）も順となっている。

歯科診療所では「0 回」と回答した割合が 36.6%と最も高く、次いで、「10 回未満」（2.9%）、「10～50 回未満」（1.5%）の順となっている。

【全体 図】



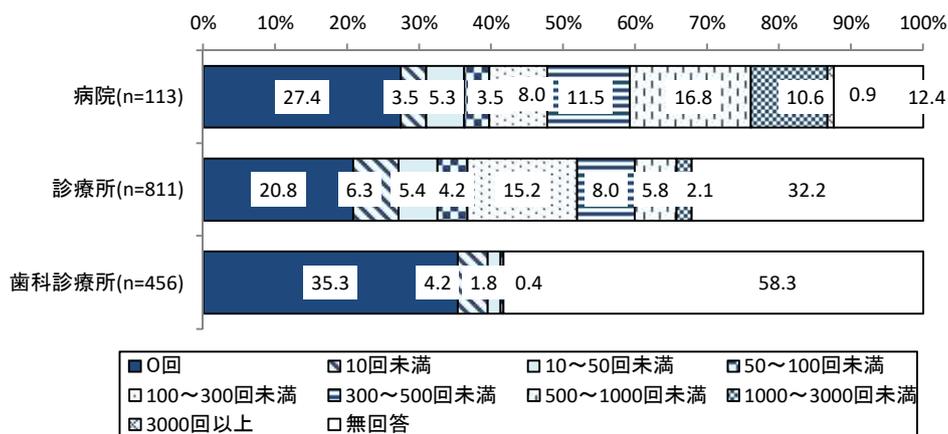
④ 一般名処方加算2（4点）の算定回数

一般各処方可算2（4点）については、病院では「0回」と回答した割合が27.4%と最も高くなっている。次いで、「500～1000回未満」（16.8%）、「300～500回未満」（11.5%）の順となっている。

診療所では「0回」と回答した割合が20.8%と最も高く、次いで、「100～300回未満」（15.2%）、「300～500回未満」（8.0%）の順となっている。

歯科診療所では「0回」と回答した割合が35.3%と最も高く、次いで、「10回未満」（4.2%）、「10～50回未満」（1.8%）の順となっている。

【全体 図】



1. 後発医薬品の採用の方針、処方状況について

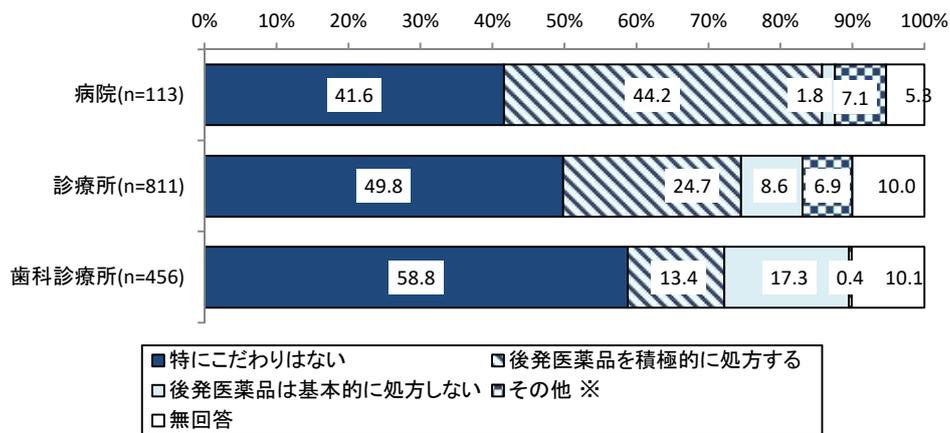
問6 後発医薬品の処方に関する考えとして、最も近いものはどれですか。

後発医薬品の処方に関する考えについて、病院では「後発医薬品を積極的に処方する」と回答した割合が44.2%と最も高くなっている。次いで、「特にこだわりはない」(41.6%)となっている。

診療所では「特にこだわりはない」と回答した割合が49.8%と最も高く、次いで、「後発医薬品を積極的に処方する」(24.7%)、「後発医薬品は基本的に処方しない」(8.6%)の順となっている。

歯科診療所では「特にこだわりはない」と回答した割合が58.8%と最も高く、次いで、「後発医薬品は基本的に処方しない」(17.3%)、「後発医薬品を積極的に処方する」(13.4%)の順となっている。

【全体 図】



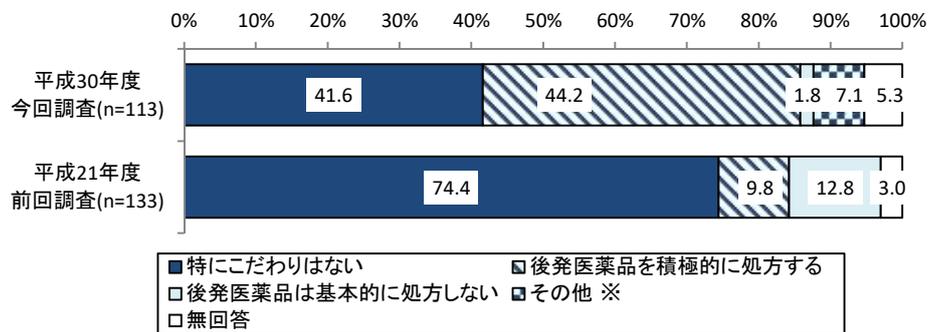
【経年比較】

※平成21年度前回調査なし

(病院)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「後発医薬品を積極的に処方する」が34.4ポイント高くなり、「後発医薬品は基本的に処方しない」が11.0ポイント低くなっている。

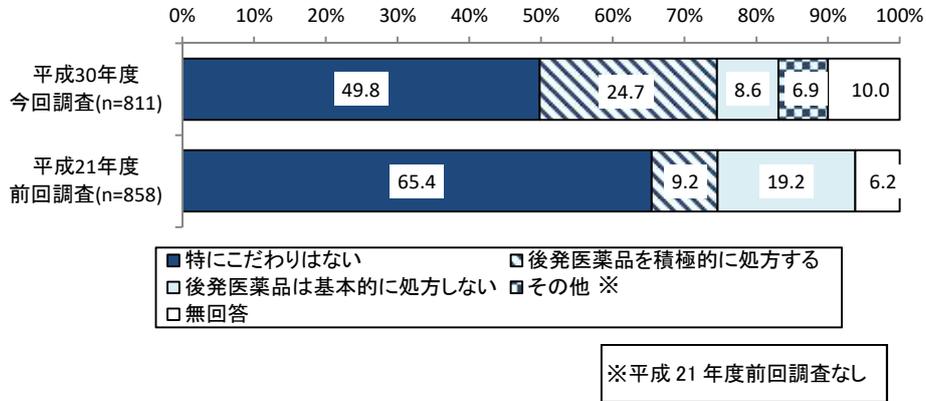
【経年比較 図】



※平成21年度前回調査なし

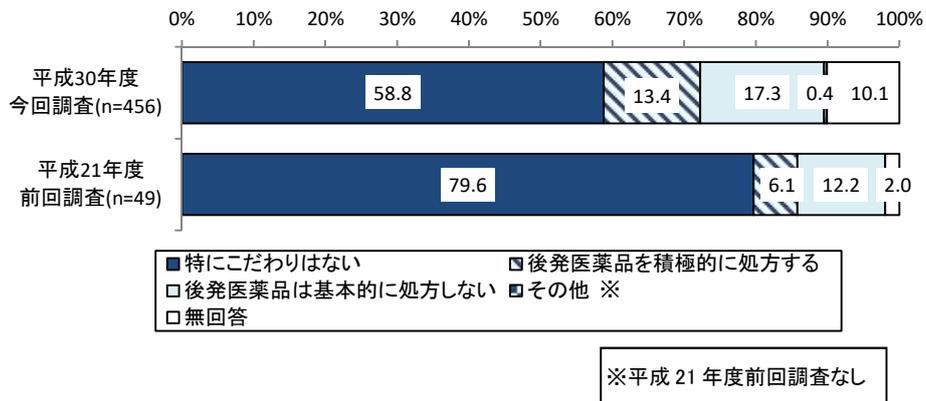
(診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「後発医薬品を積極的に処方する」が15.5ポイント高くなり、「後発医薬品は基本的に処方しない」が10.6ポイント低くなっている。



(歯科診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「後発医薬品を積極的に処方する」が7.3ポイント、「後発医薬品は基本的に処方しない」が5.1ポイント高くなっている。

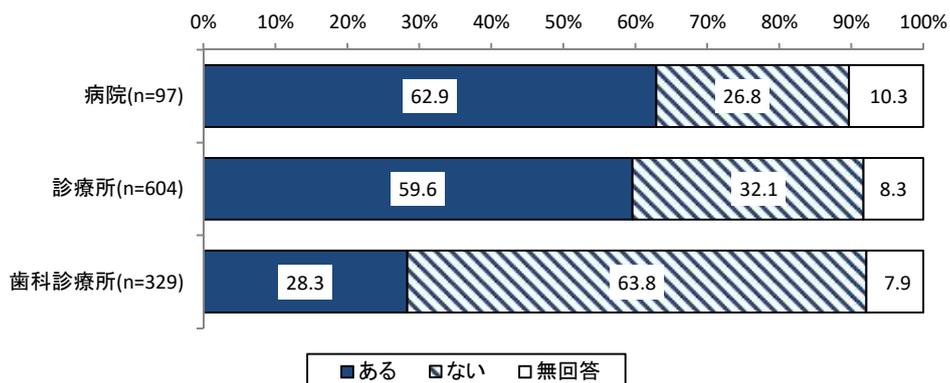


《問6で「1」、「2」を選んだ方へ》

問6-1 後発医薬品について不安はありますか。

後発医薬品についての不安の有無について、病院・診療所ともに「ある」と回答した割合が6割近くと最も高くなっている。歯科診療では「ない」と回答した割合が63.8%と回答した割合が最も高くなっている。

【全体 図】



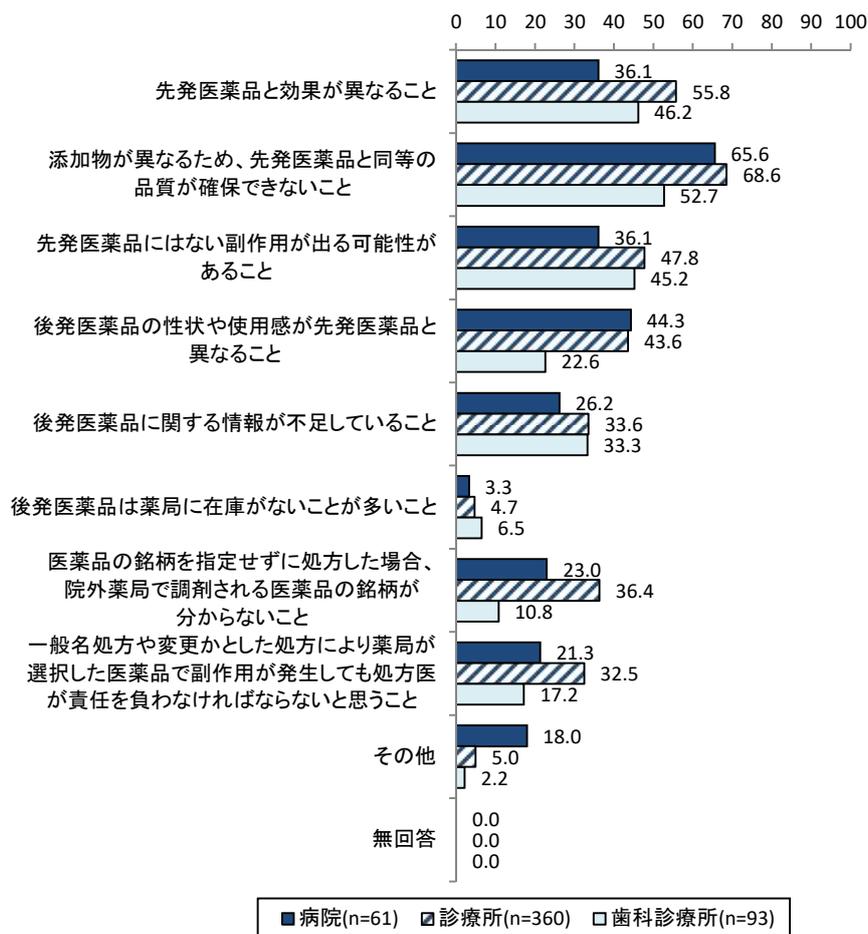
《問6-1で「1」を選んだ方へ》

問6-2 どのように不安を感じていますか。【複数回答可】

後発医薬品についてどのように不安を感じているかについて、病院・診療所・歯科診療所ともに「添加物が異なるため、先発医薬品と同等の品質が確保できないこと」と回答した割合が6割近くと最も高くなっている。

また、診療所では、「先発医薬品と効果が異なること」と回答した割合が55.8%と病院・歯科診療所に比べて高くなっている。

【全体 図】



《問6で「3」を選んだ方へ》

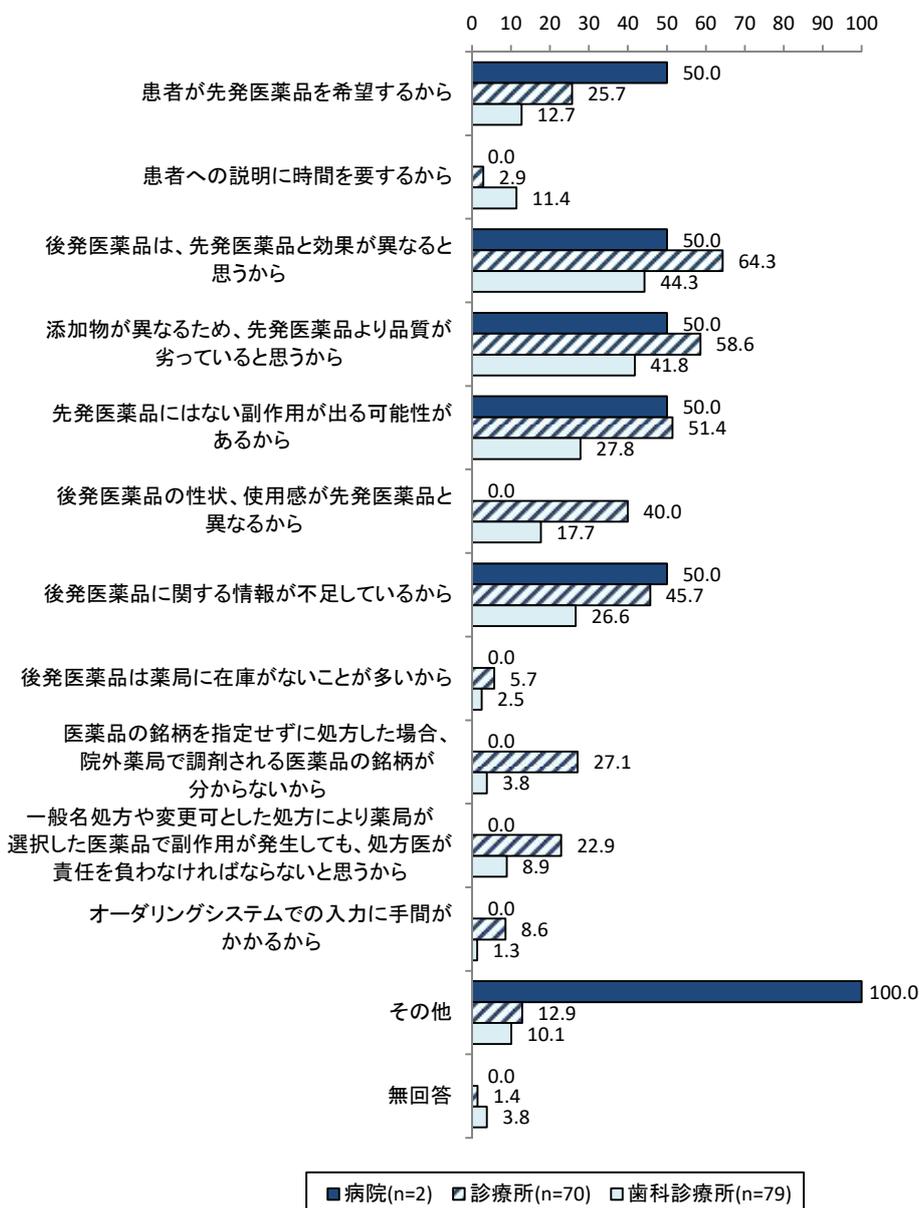
問6-3 その理由は何ですか。【複数回答可】

後発医薬品を基本的に処方しない理由について、診療所では「後発医薬品は、先発医薬品と効果が異なると思うから」と回答した割合が 64.3%と最も高く、次いで、「添加物が異なるため、先発医薬品より品質が劣っていると思うから」(58.6%)、「先発医薬品にはない副作用が出る可能性があるから」(51.4%)の順となっている。

歯科診療所では「後発医薬品は、先発医薬品と効果が異なると思うから」と回答した割合が 44.3%と最も高く、次いで、「添加物が異なるため、先発医薬品より品質が劣っていると思うから」(41.8%)、「先発医薬品にはない副作用が出る可能性があるから」(27.8%)の順となっている。

病院では「患者が先発医薬品を希望するから」と回答した割合が 50.0%と診療所・歯科診療所に比べて高くなっている。

【全体 図】

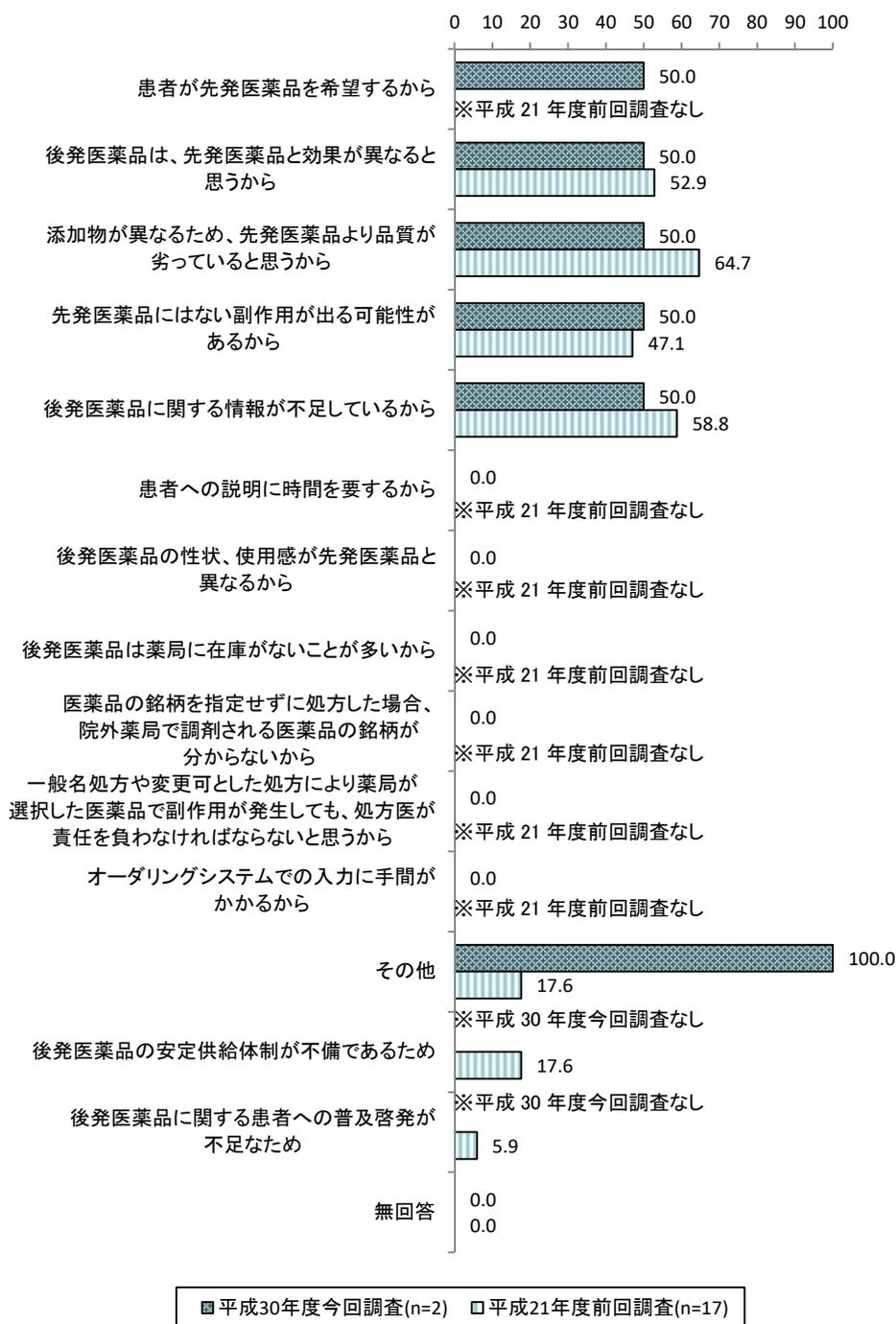


【経年比較】

(病院)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「添加物が異なるため、先発医薬品より品質が劣っていると思うから」が14.7ポイント低くなっている。

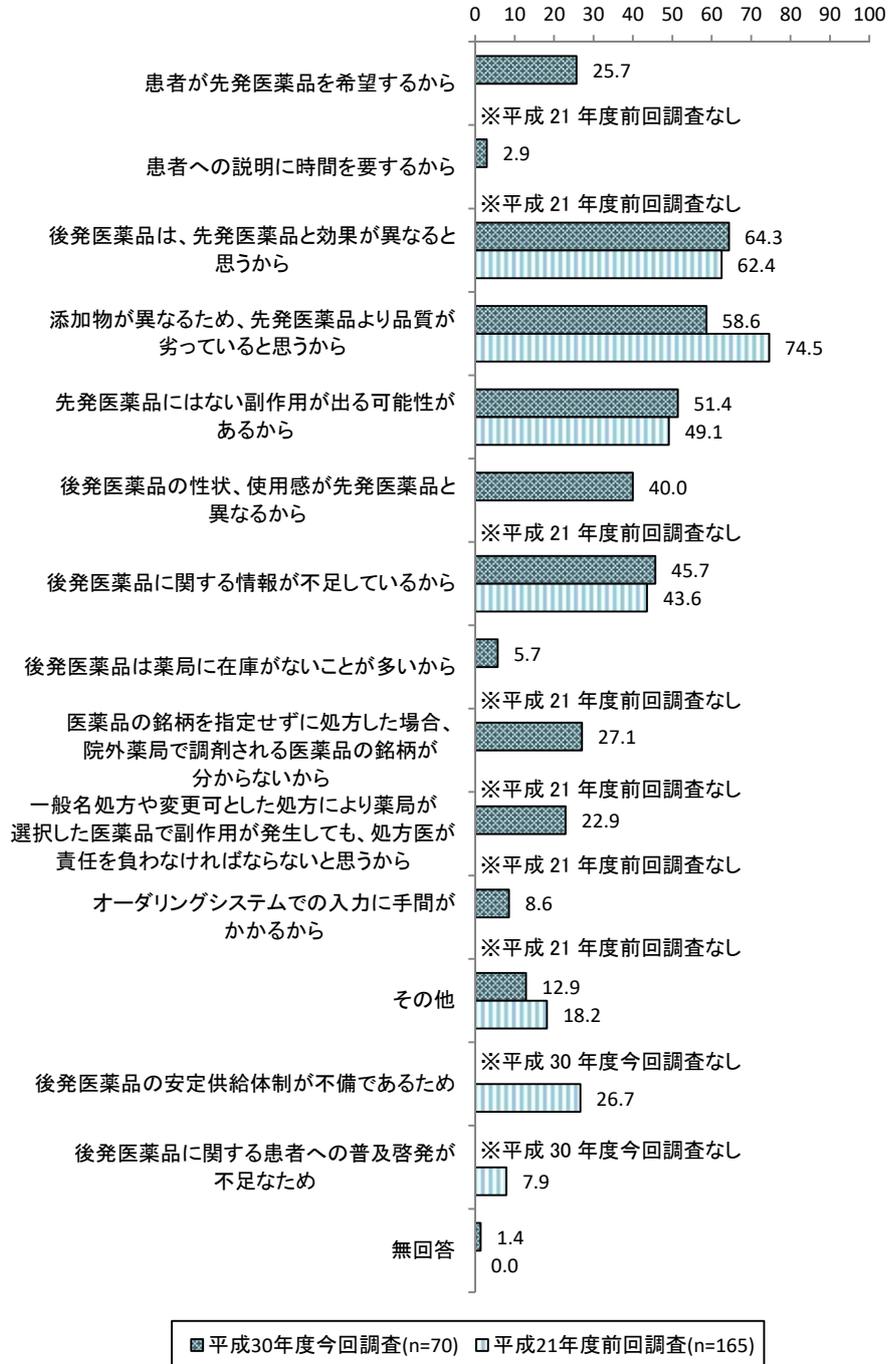
【経年比較 図】



(診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「添加物が異なるため、先発医薬品より品質が劣っていると思うから」が15.9ポイント低くなっている。

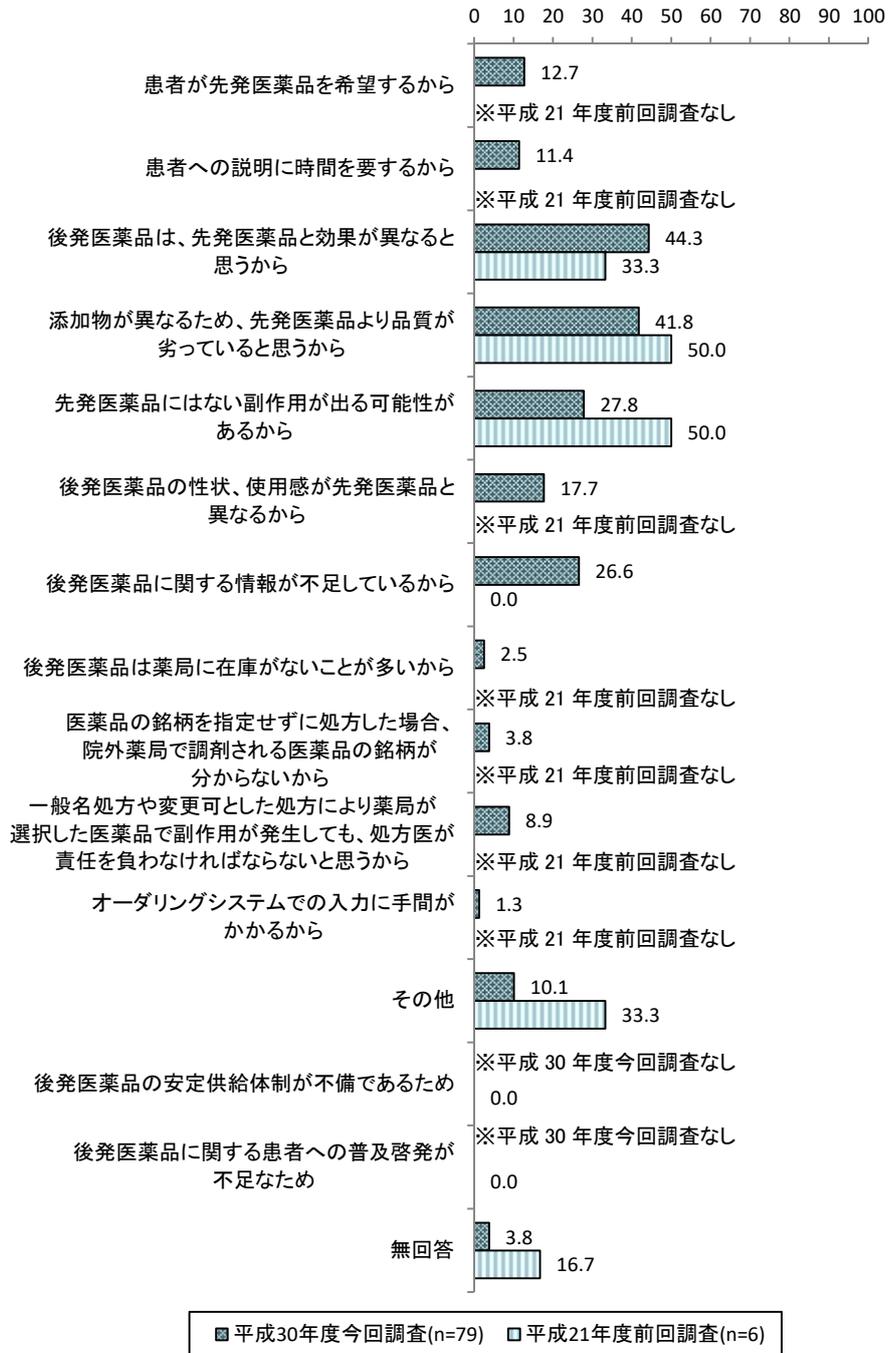
【経年比較 図】



(歯科診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「後発医薬品に関する情報が不足しているから」が26.6ポイント高くなっている。

【経年比較 図】



《すべての方へ》

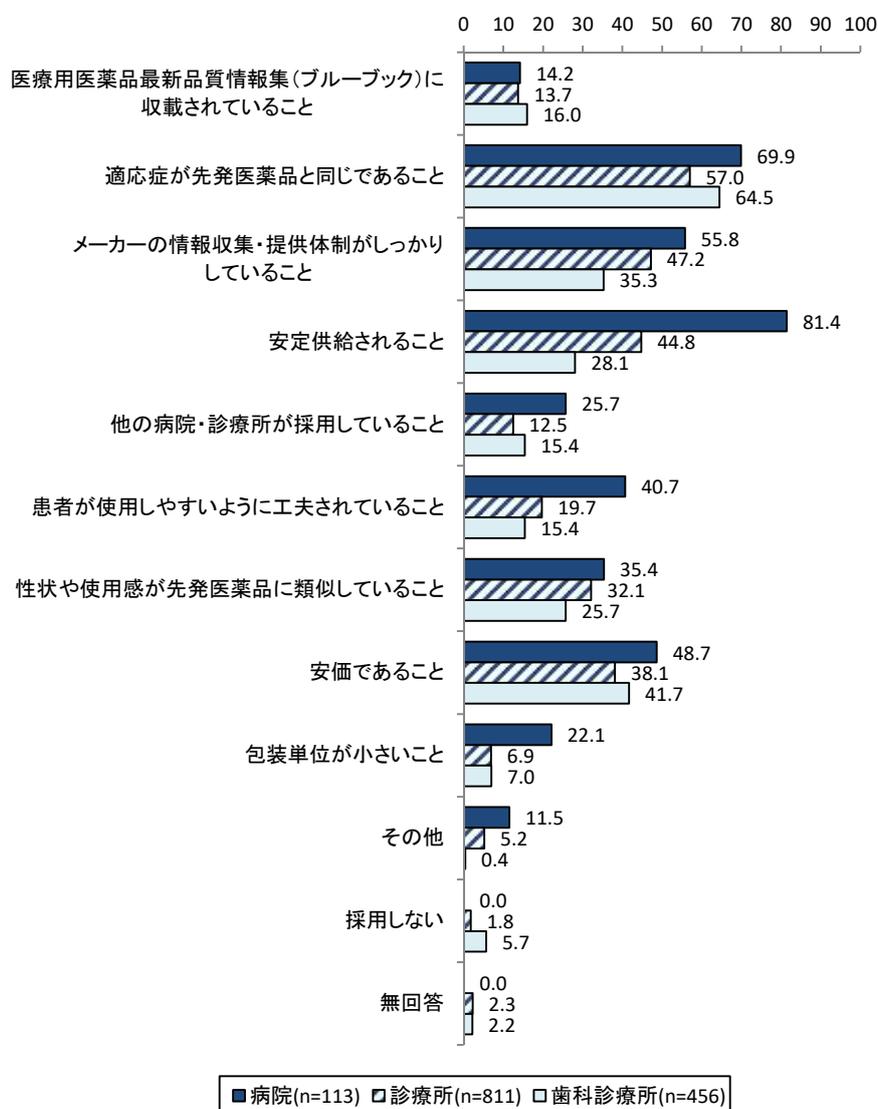
問7 後発医薬品を採用する際に、何を重視しますか。【複数回答可】

後発医薬品を採用する際に重視することについて、病院では「安定供給されること」と回答した割合が81.4%と最も高くなっている。次いで「適応症が先発医薬品と同じであること」(69.9%)、「メーカーの情報収集・提供体制がしっかりしていること」(55.8%)の順になっている。

診療所では、「適応症が先発医薬品と同じであること」と回答した割合が57.0%と最も高く、次いで「メーカーの情報収集・提供体制がしっかりしていること」(47.2%)、「安定供給されること」(44.8%)の順になっている。

歯科診療所では、「適応症が先発医薬品と同じであること」と回答した割合が64.5%と最も高く、次いで「安価であること」(41.7%)、「メーカーの情報収集・提供体制がしっかりしていること」(35.3%)の順になっている。

【全体 図】

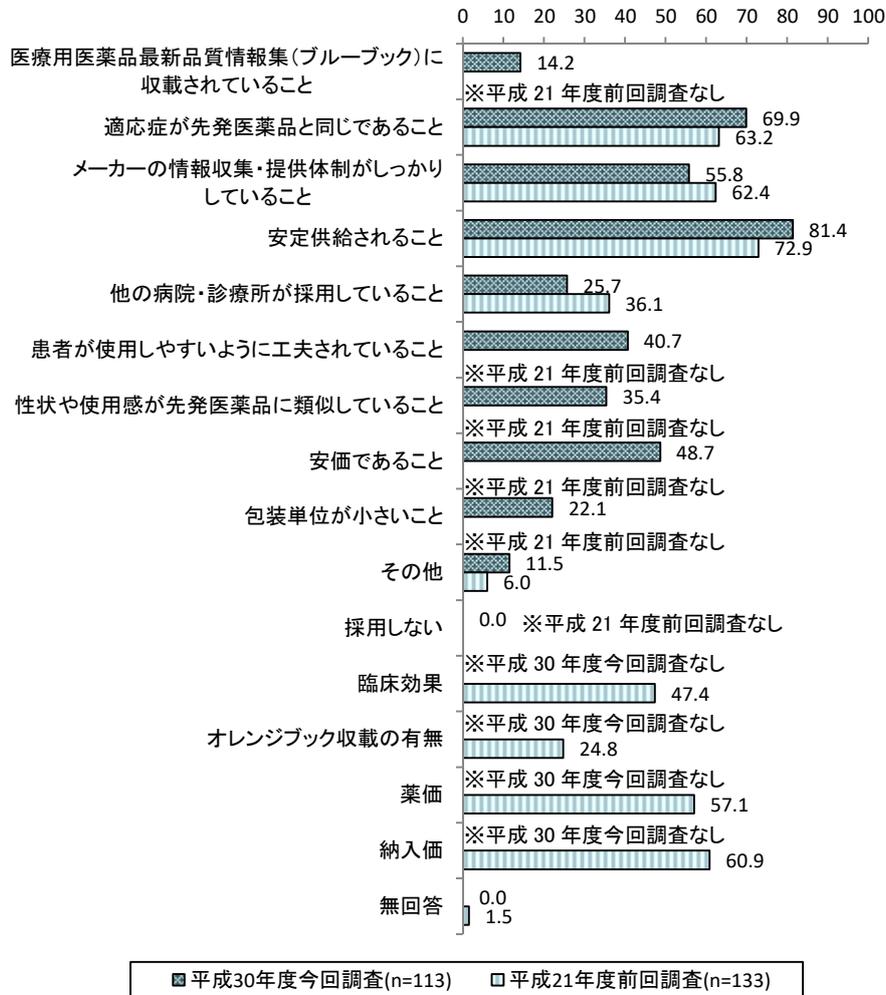


【経年比較】

(病院)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「他の病院・診療所が採用していること」が10.4ポイント低くなっている。

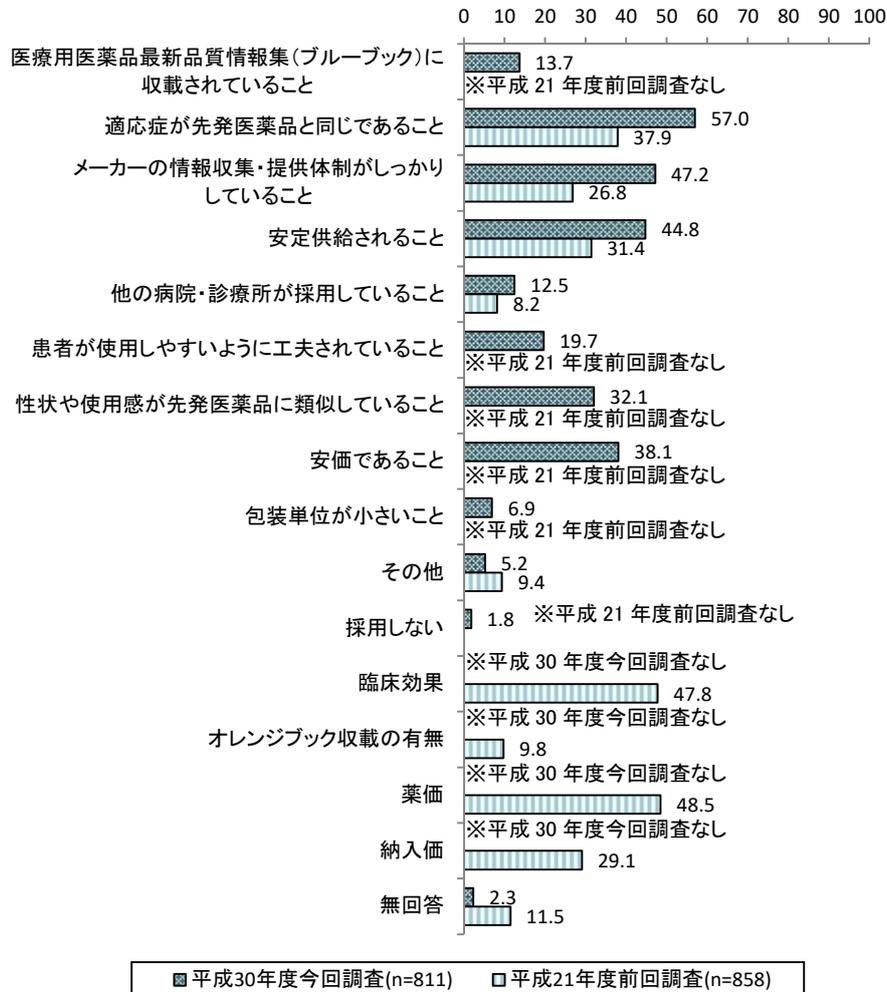
【経年比較 図】



(診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「メーカーの情報収集・提供体制がしっかりしていること」が20.4ポイント高くなっている。

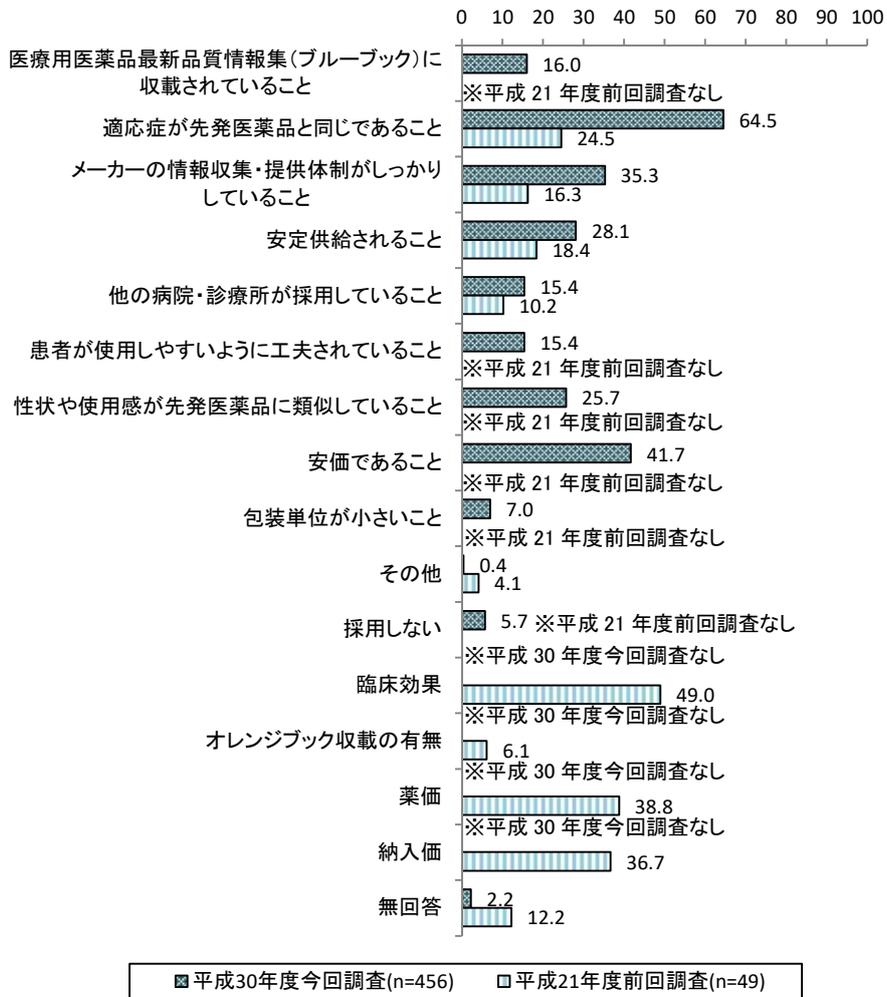
【経年比較 図】



(歯科診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「適応症が先発医薬品と同じであること」が40.0ポイント高くなっている。

【経年比較 図】



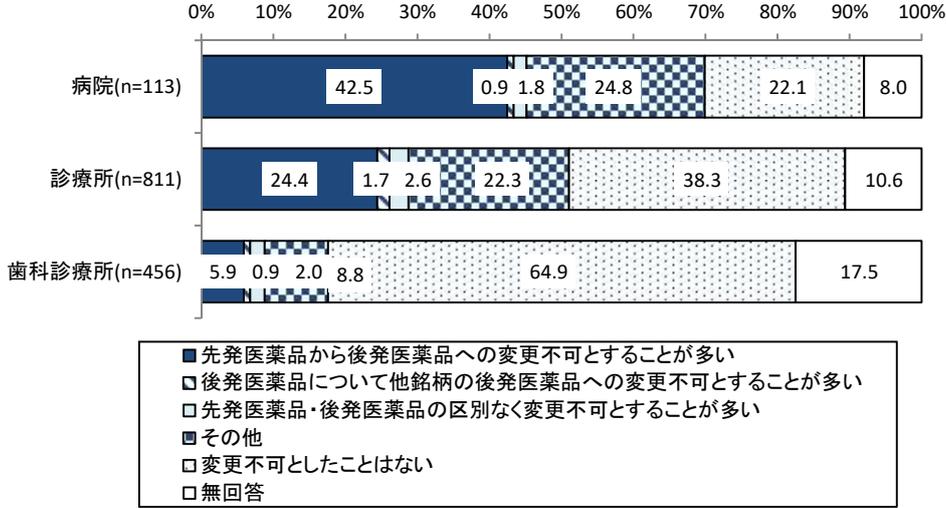
問8 院外処方箋の「後発医薬品への変更不可」欄にチェックするのは、どのような場合が最も多いですか。

院外処方箋の「後発医薬品への変更不可」欄にチェックする場合について、病院では「先発医薬品から後発医薬品への変更不可とすることが多い」と回答した割合が42.5%と最も高く、「変更不可としたことはない」と回答した割合は22.1%となっている。

診療所では、「変更不可としたことはない」と回答した割合が38.3%と最も高く、次いで「先発医薬品から後発医薬品への変更不可とすることが多い」(24.4%)となっている。

歯科診療所では、「変更不可としたことはない」と回答した割合が64.9%と最も高くなっている。

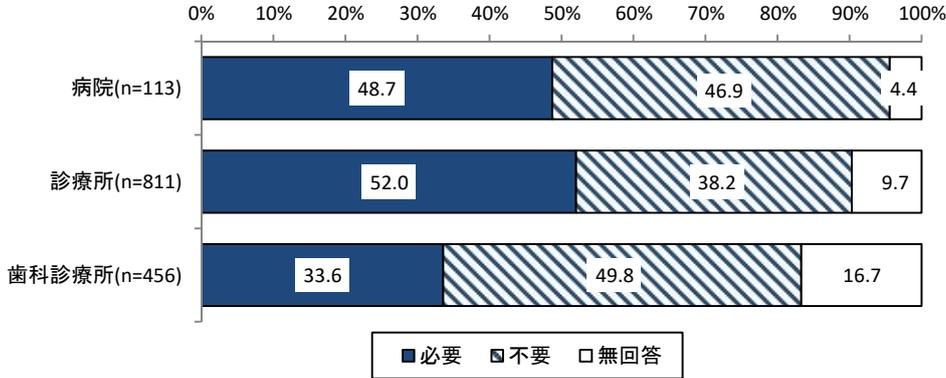
【全体 図】



問9 一般名処方の調剤又は後発医薬品へ変更調剤する場合、院外薬局から実際に調剤した薬剤の銘柄について情報提供は必要ですか。

一般名処方の調剤又は後発医薬品へ変更調剤する場合、院外薬局から実際に調剤した薬剤の銘柄について情報提供は必要かについて、「必要」と回答した割合は、診療所で52.0%と最も高く、次いで病院(48.7%)、歯科診療所(33.6%)の順となっている。

【全体 図】

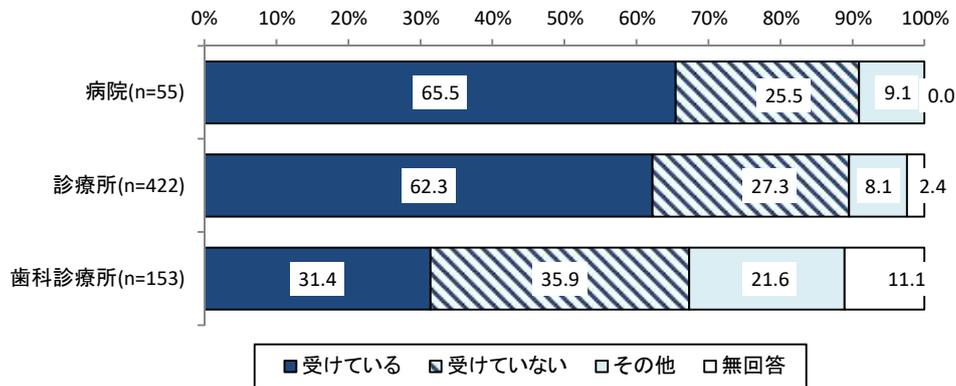


《問9で「1」を選んだ方へ》

問9-1 薬局から情報提供を受けていますか。

薬局から情報提供を受けているかについて、「受けている」と回答した割合は、病院で65.5%と最も高く、次いで診療所(62.3%)、歯科診療所(31.4%)の順となっている。

【全体 図】

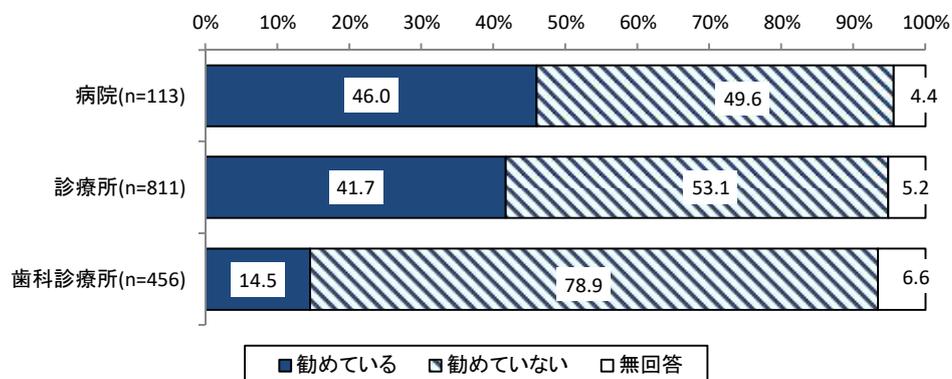


2. 後発医薬品と患者との関係について

問10 患者に後発医薬品を勧めていますか。

患者に後発医薬品を勧めているかについて、「勧めている」と回答した割合は、病院で 46.0%と最も高く、次いで診療所(41.7%)、歯科診療所(14.5%)の順となっている。

【全体 図】



《問10で「1」を選んだ方へ》

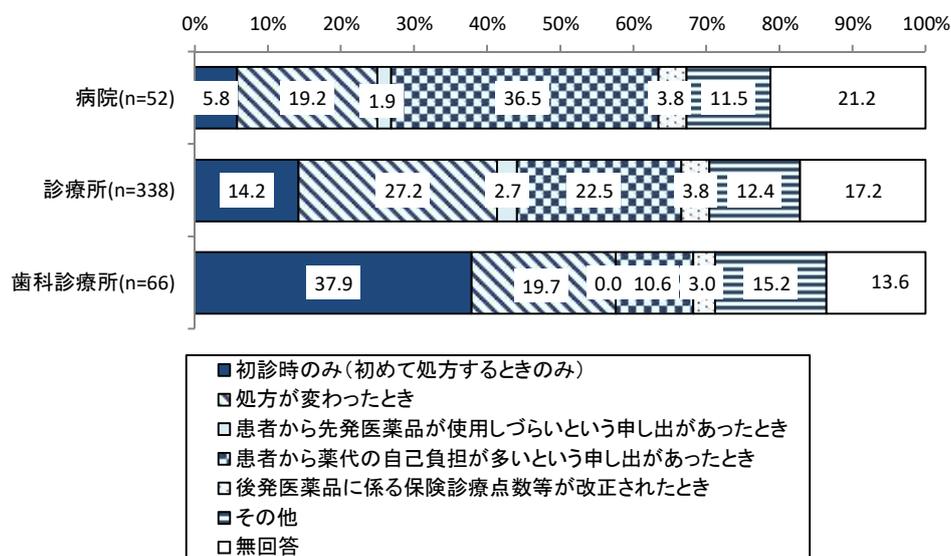
問10-1 患者に後発医薬品を勧める機会として、最も多いものはどれですか。

患者に後発医薬品を勧める機会として、病院では「患者から薬代の自己負担が多いという申し出があったとき」と回答した割合が 36.5%と最も高く、次いで「処方が変わったとき」(19.2%)となっている。

診療所では、「処方が変わったとき」と回答した割合が 27.2%と最も高く、次いで「患者から薬代の自己負担が多いという申し出があったとき」(22.5%)、「初診時のみ(初めて処方するときのみ)」(14.2%)の順となっている。

歯科診療所では、「初診時のみ(初めて処方するときのみ)」と回答した割合が 37.9%と最も高く、次いで「処方が変わったとき」(19.7%)となっている。

【全体 図】

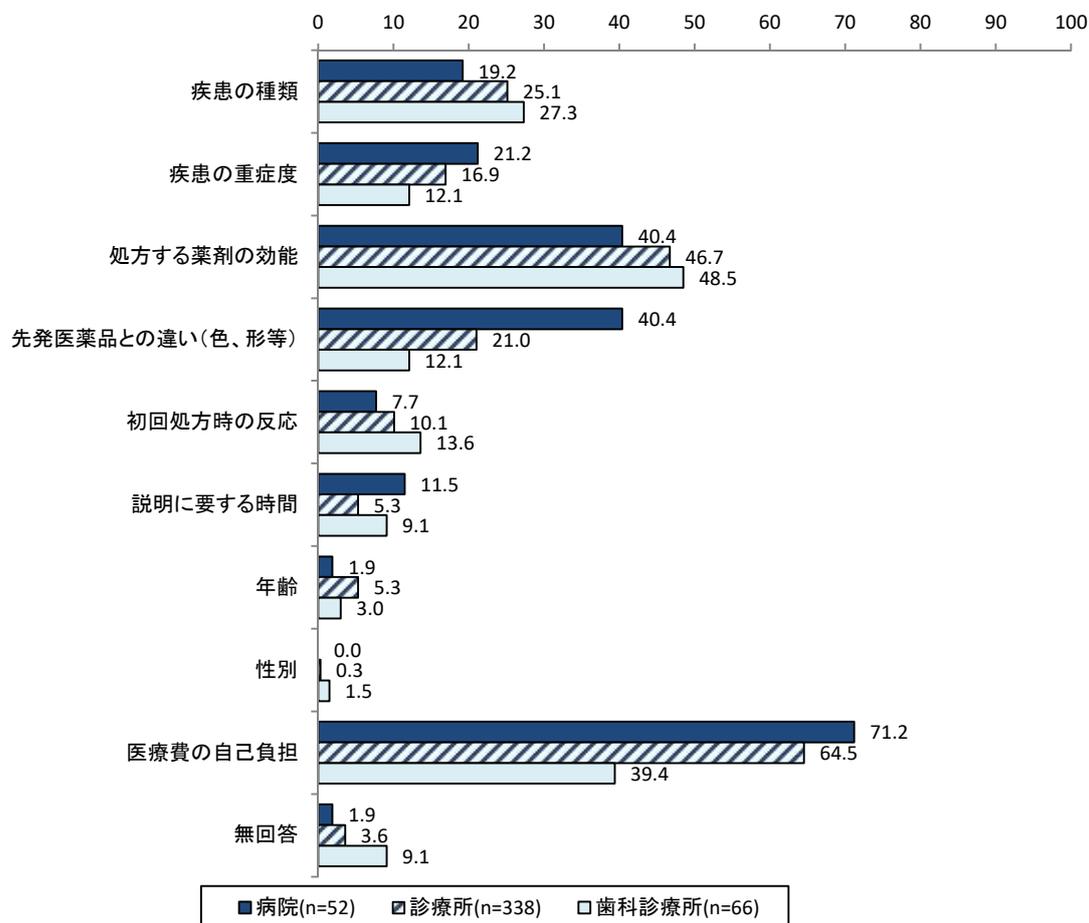


問10-2 患者に後発医薬品を勧めるときに考慮する事項はどれですか。【複数回答可】

患者に後発医薬品を勧めるときに考慮する事項について、病院・診療所ともに「医療費の自己負担」と回答した割合が7割近くと最も高くなっている。

歯科診療所では、「処方する薬剤の効能」と回答した割合が48.5%と最も高く、次いで「医療費の自己負担」(39.4%)、「疾患の種類」(27.3%)の順となっている。

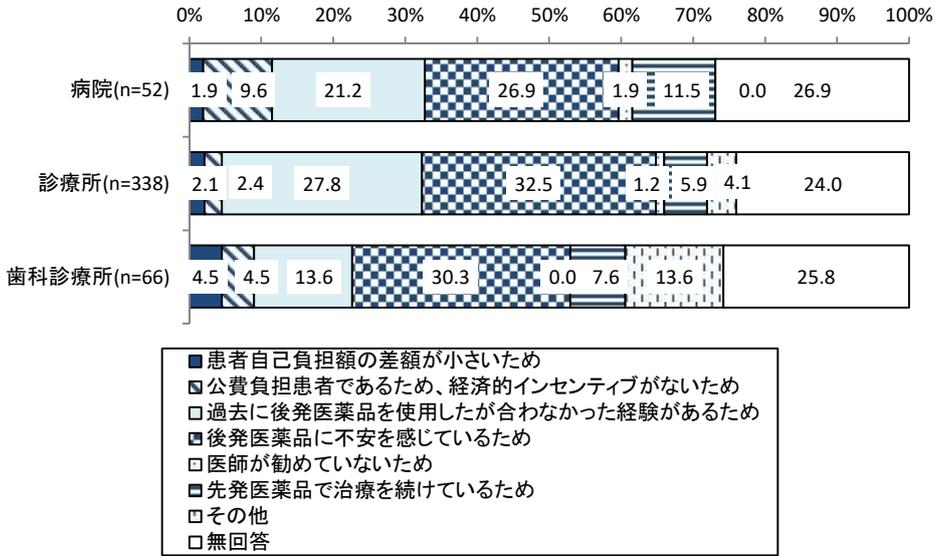
【全体 図】



問10-3 後発医薬品について説明しても、患者が後発医薬品への変更を希望しなかった理由として、最も多いものはどれですか。

後発医薬品について説明しても、患者が後発医薬品への変更を希望しなかった理由について、病院・診療所・歯科医院ともに「後発医薬品に不安を感じているため」と回答した割合が3割近くと最も高くなっている。

【全体 図】

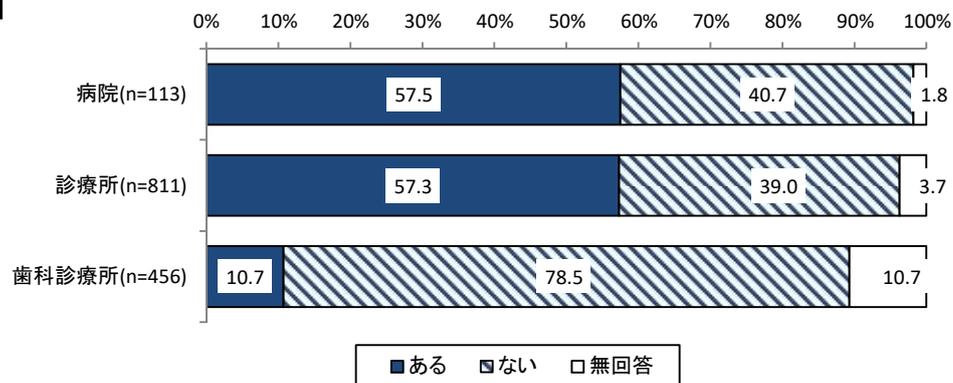


3. 後発医薬品の品質、供給等について

問11 後発医薬品の効果が、先発医薬品と異なった経験はありますか。

後発医薬品の効果が、先発医薬品と異なった経験の有無について、「ある」と回答した割合は、病院で57.5%と最も高く、次いで診療所(57.3%)、歯科診療所(10.7%)の順となっている。

【全体 図】

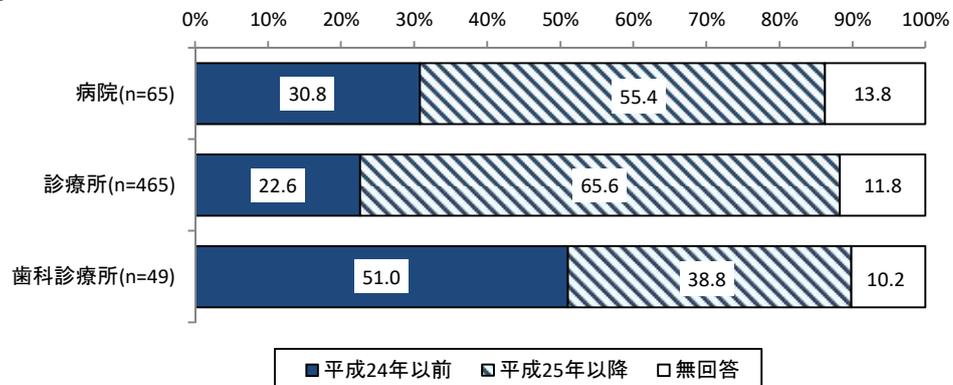


《問11で「1」を選んだ方へ》

問11-1 それはいつごろですか。

それはいつごろかについて、「平成25年以降」と回答した割合は、診療所で65.6%と最も高く、次いで病院(55.4%)、歯科診療所(38.8%)の順となっている。

【全体 図】

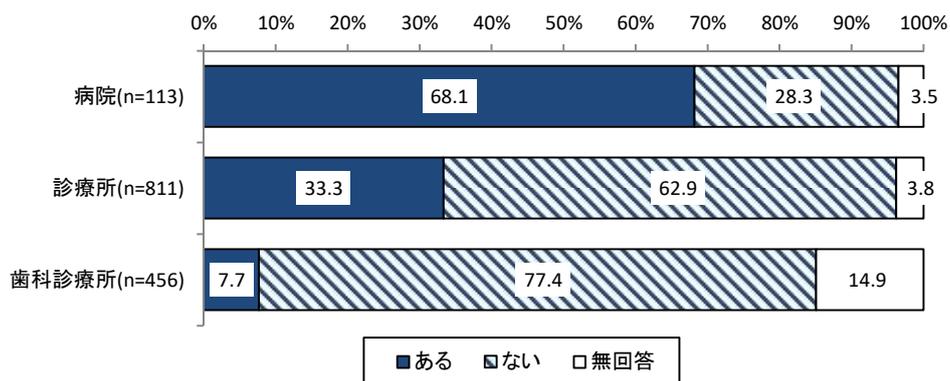


《すべての方へ》

問12 納品までに時間を要したり、急に製造が中止される等後発医薬品が安定供給されなかった経験はありますか。

納品までに時間を要したり、急に製造が中止される等後発医薬品が安定供給されなかった経験の有無について、「ある」と回答した割合は、病院で 68.1%と最も高く、次いで診療所(33.3%)、歯科診療所(7.7%)の順となっている。

【全体 図】

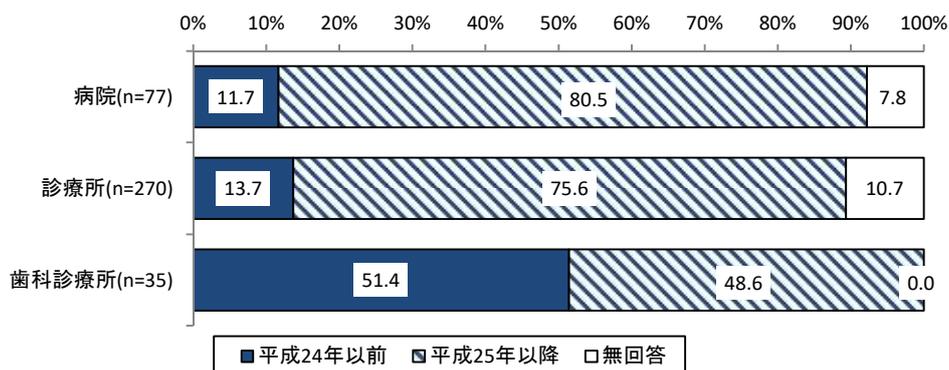


《問12で「1」を選んだ方へ》

問12-1 それはいつごろですか。

それはいつごろかについて、「平成25年以降」と回答した割合は、病院で80.5%と最も高く、次いで診療所(75.6%)、歯科診療所(48.6%)の順となっている。

【全体 図】



《すべての方へ》

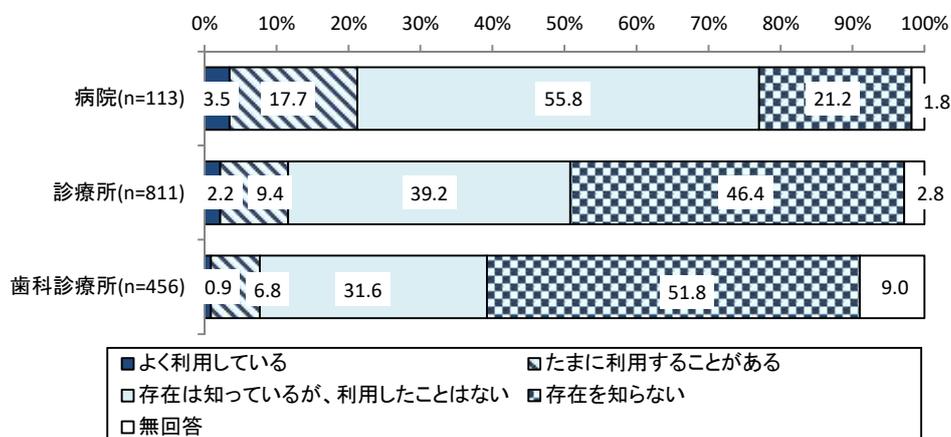
問13 ジェネリック医薬品品質情報検討会が作成している医療用医薬品最新品質情報集(ブルーブック) <http://www.nihs.go.jp/drug/ecqaged.html> を利用したことはありますか。

ジェネリック医薬品品質情報検討会が作成している医療用医薬品最新品質情報集(ブルーブック)の利用について、病院では「存在は知っているが、利用したことはない」と回答した割合が55.8%と最も高く、次いで「存在を知らない」(21.2%)、「たまに利用することがある」(17.7%)の順となっている。

診療所では、「存在を知らない」と回答した割合が46.4%と最も高く、次いで「存在は知っているが、利用したことはない」(39.2%)、「たまに利用することがある」(9.4%)の順となっている。

歯科診療所では、「存在を知らない」と回答した割合が51.8%と最も高く、次いで「存在は知っているが、利用したことはない」(31.6%)、「たまに利用することがある」(6.8%)の順となっている。

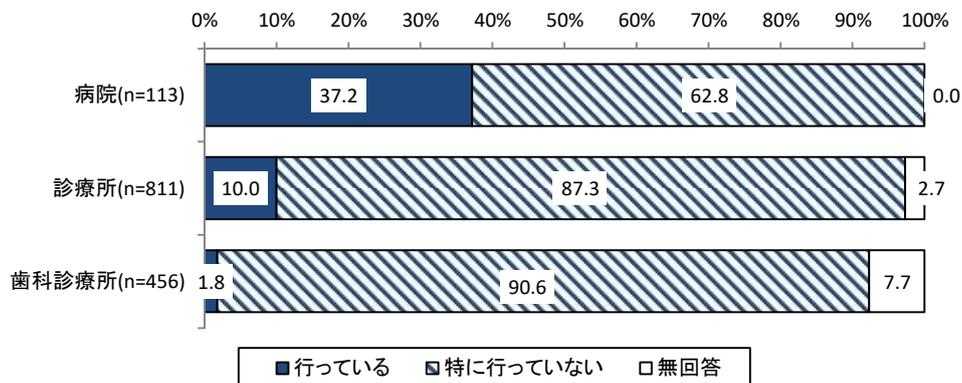
【全体 図】



問14 後発医薬品の使用に関して何か取り組みや工夫を行っていますか。

後発医薬品の使用に関して何か取り組みや工夫を行っているかについて、「特に行っていない」と回答した割合は、歯科診療所で90.6%と最も高く、次いで診療所(87.3%)、病院(62.8%)の順となっている。

【全体 図】



問15 今後、どのような対応がなされれば、後発医薬品の処方を進めることができますか。

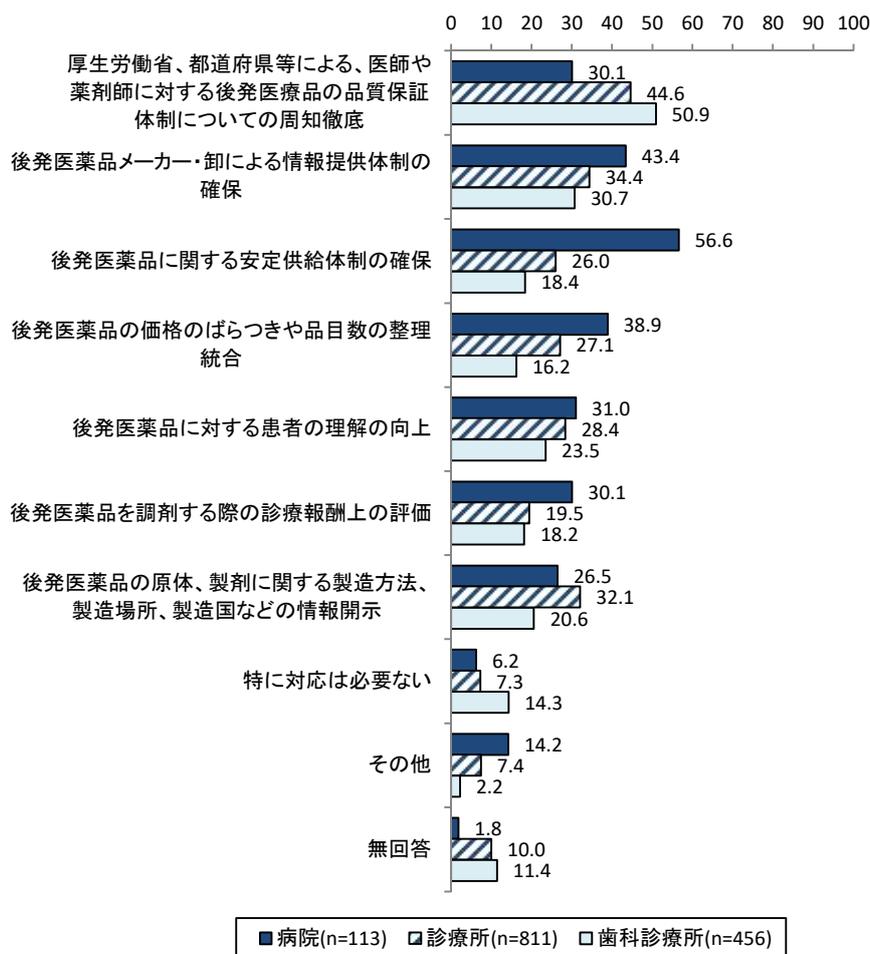
【複数回答可】

今後、どのような対応がなされれば、後発医薬品の処方を進めることができるかについて、病院では「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」と回答した割合が56.6%と最も高く、次いで「後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保」(43.4%)、「後発医薬品の価格のばらつきや品目数の整理統合」(38.9%)の順となっている。

診療所では、「厚生労働省、都道府県等による、医師や薬剤師に対する後発医療品の品質保証体制についての周知徹底」と回答した割合が44.6%と最も高く、次いで「後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保」(34.4%)、「後発医薬品の原体、製剤に関する製造方法、製造場所、製造国などの情報開示」(32.1%)の順となっている。

歯科診療所では、「厚生労働省、都道府県等による、医師や薬剤師に対する後発医療品の品質保証体制についての周知徹底」と回答した割合が50.9%と最も高く、次いで「後発医薬品メーカー・卸による情報提供体制の確保」(30.7%)、「後発医薬品に対する患者の理解向上」(23.5%)の順となっている。

【全体 図】

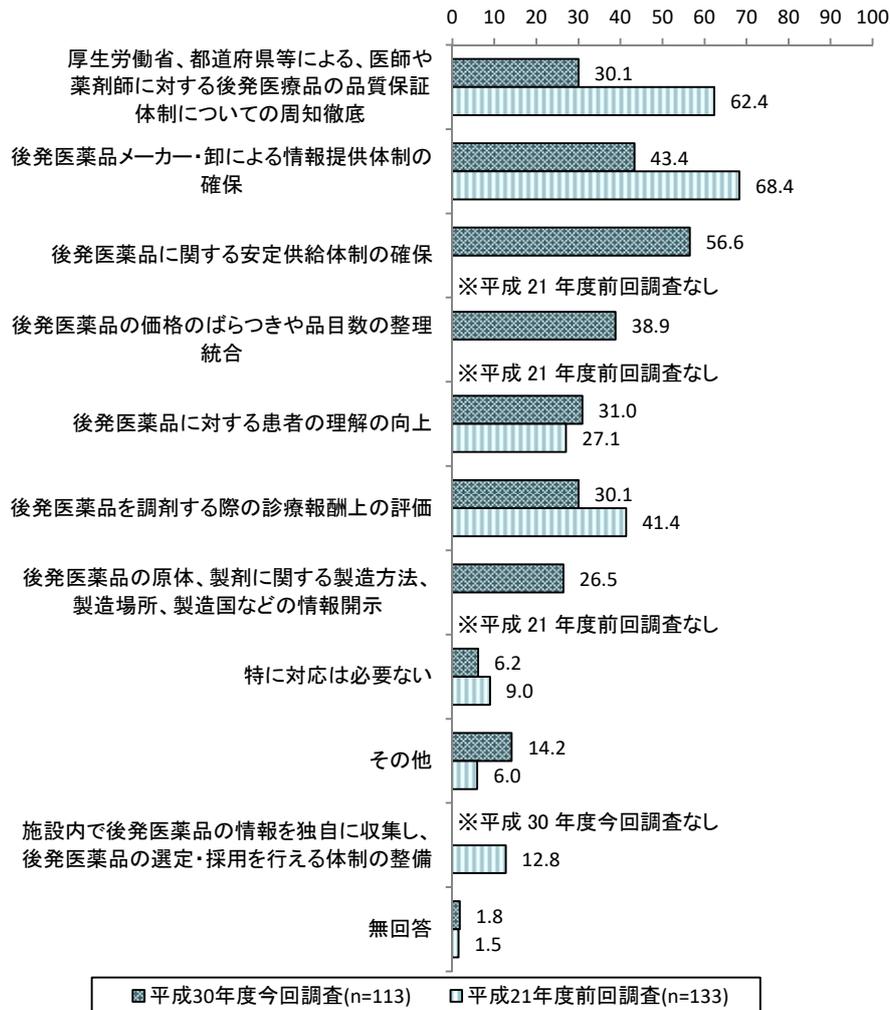


【経年比較】

(病院)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「厚生労働省、都道府県等による、医師や薬剤師に対する後発医療品の品質保証体制についての周知徹底」が32.3ポイント低くなっている。

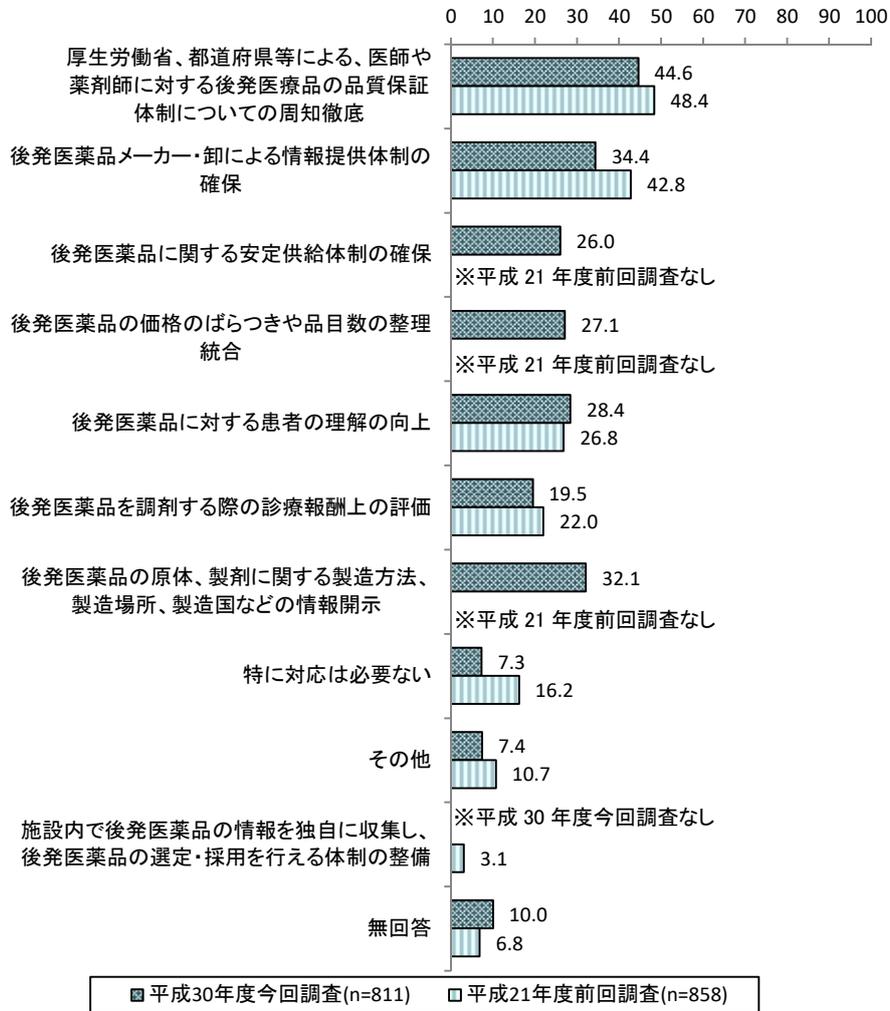
【経年比較 図】



(診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「特に対応は必要ない」が8.9ポイント低くなっている。

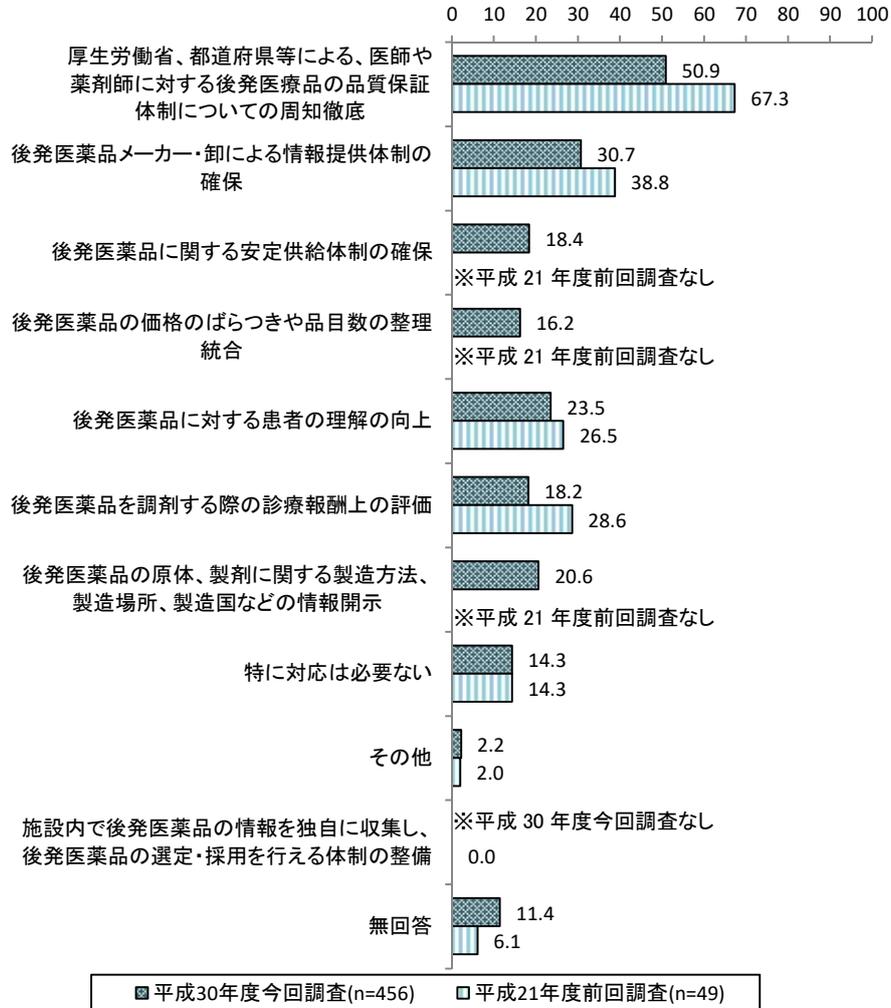
【経年比較 図】



(歯科診療所)

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「厚生労働省、都道府県等による、医師や薬剤師に対する後発医療品の品質保証体制についての周知徹底」が16.4ポイント低くなっている。

【経年比較 図】



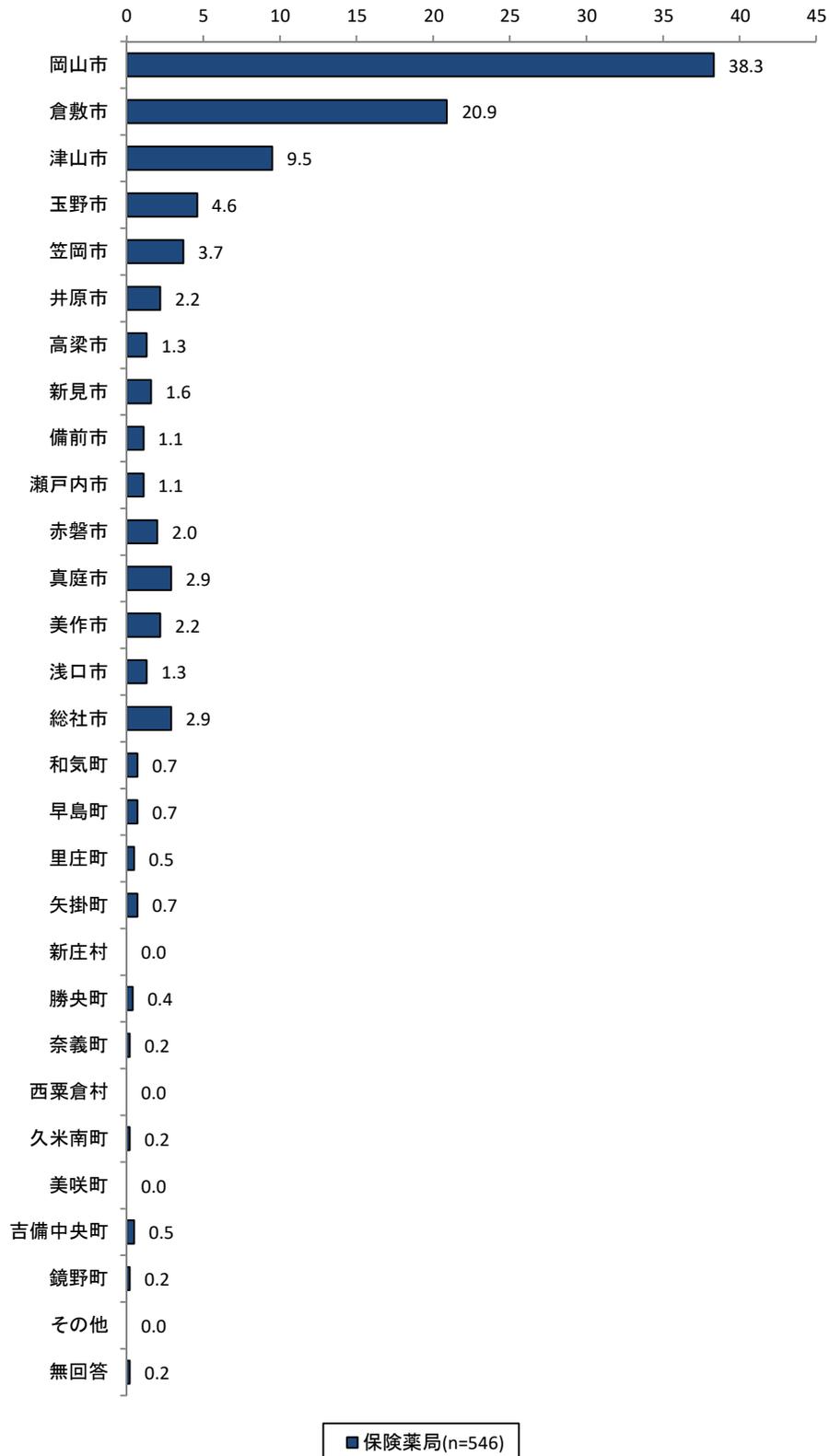
2. 薬局（保険薬局）アンケート

回答者について

問1 薬局の所在地(市町村)

施設の所在地について、「岡山市」と回答した割合が38.3%と最も高く、次いで「倉敷市」(20.9%)、「津山市」(9.5%)の順となっている。

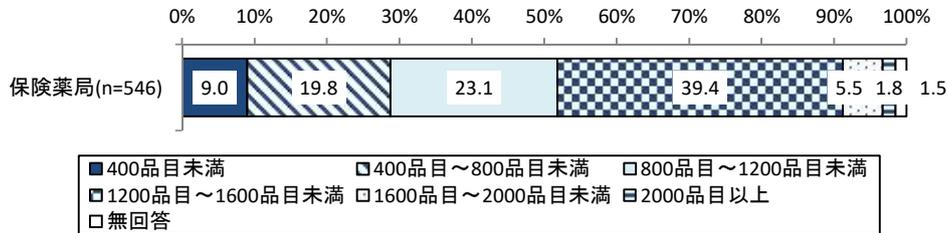
【全体 図】



問2 全医療用医薬品の在庫状況(品目数)はどのくらいですか。

全医療用医薬品の在庫状況(品目数)について、「1200品目～1600品目未満」と回答した割合が39.4%と最も高く、次いで「800品目～1200品目未満」(23.1%)、「400品目～800品目未満」(19.8%)の順となっている。

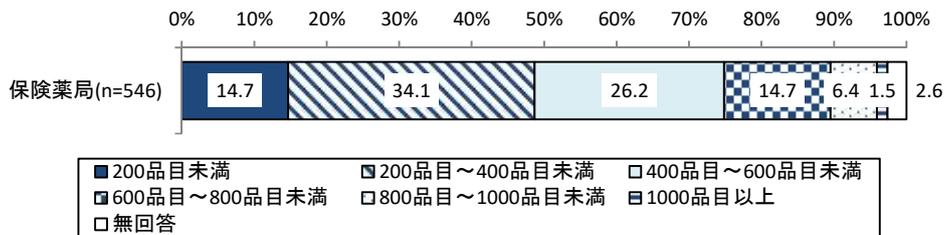
【全体 図】



問3 後発医薬品の在庫状況(品目数)はどれくらいですか。

後発医薬品の在庫状況(品目数)について、「200品目～400品目未満」と回答した割合が34.1%と最も高く、次いで「400品目～800品目未満」(26.2%)、「200品目未満」(14.7%)の順となっている。

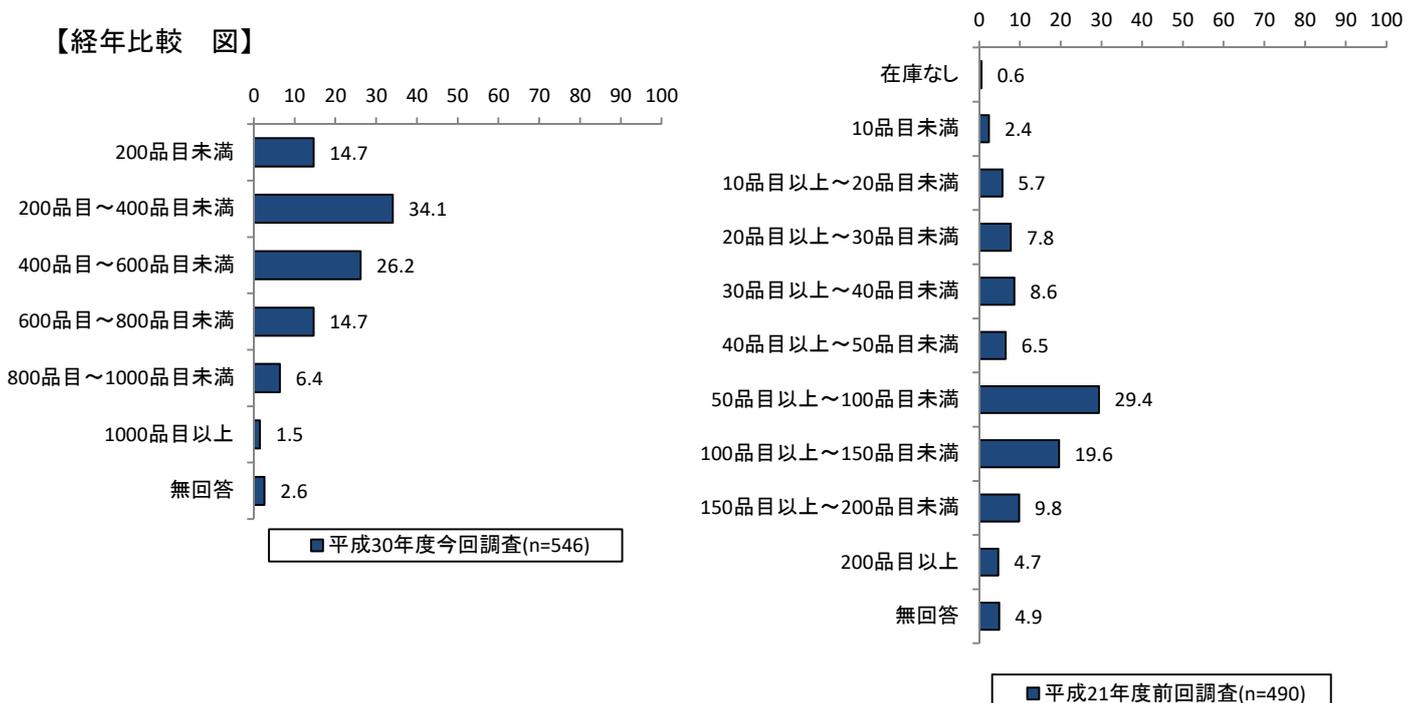
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「200品目以上」に在庫が増えている。

【経年比較 図】

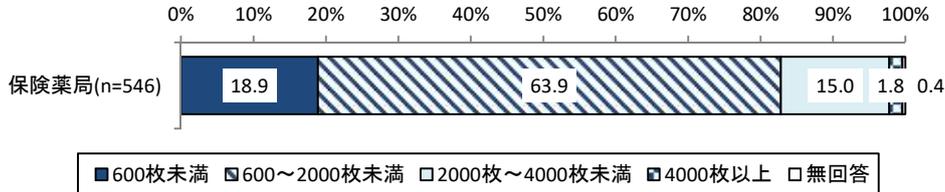


1. 平成30年10月(1ヶ月間)に受け付けた処方箋について

問4 平成30年10月分の処方箋受付枚数はどのくらいですか。

平成30年10月分の処方箋受付枚数について、「600～2000枚未満」と回答した割合が63.9%と最も高く、次いで「600枚未満」(18.9%)、「2000枚～4000枚未満」(15.0%)の順となっている。

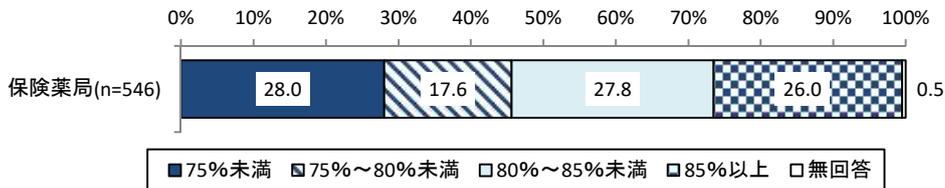
【全体 図】



問5 平成30年10月分の受付処方箋のうち、後発医薬品の調剤はどのくらいですか。(後発医薬品調剤体制加算と同じ計算による)

平成30年10月分の受付処方箋のうち、後発医薬品の調剤の割合について、「75%未満」と回答した割合が28.0%と最も高く、次いで「80%～85%未満」(27.8%)、「85%以上」(26.0%)の順となっている。

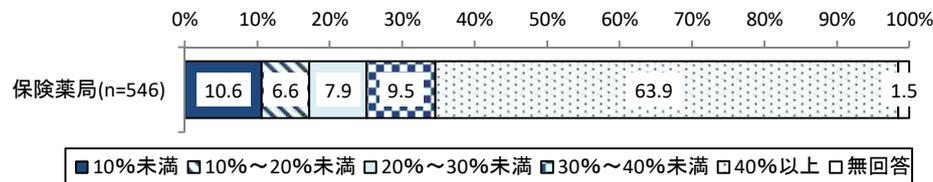
【全体 図】



問6 平成30年10月分の受付処方箋のうち、一般名による処方箋の割合はどのくらいですか。

平成30年10月分の受付処方箋のうち、一般名による処方箋の割合について、「40%以上」と回答した割合が63.9%と最も高く、次いで「10%未満」(10.6%)、「30%～40%未満」(9.5%)の順となっている。

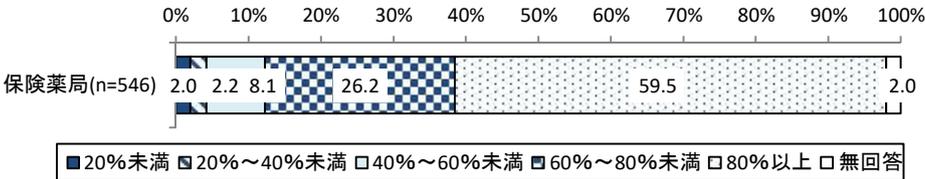
【全体 図】



問7 平成30年10月に受け付けた一般名による処方箋のうち、後発医薬品を調剤した割合はどのくらいですか。

平成 30 年 10 月分に受け付けた一般名による処方箋のうち、後発医薬品を調剤した割合について、「80%以上」と回答した割合が 59.5%と最も高く、次いで「60%～80%未満」(26.2%)、「40%～60%未満」(8.1%)の順となっている。

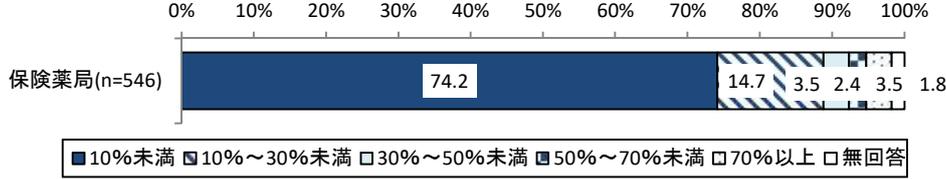
【全体 図】



問8 平成30年10月分の受付処方箋のうち、後発医薬品への変更不可のチェックがされている割合はどのくらいですか。

平成 30 年 10 月分の受付処方箋のうち、後発医薬品への変更不可のチェックがされている割合について、「10%未満」と回答した割合が 74.2%と最も高く、次いで「10%～30%未満」(14.7%)、「30%～50%未満」(3.5%)の順となっている。

【全体 図】

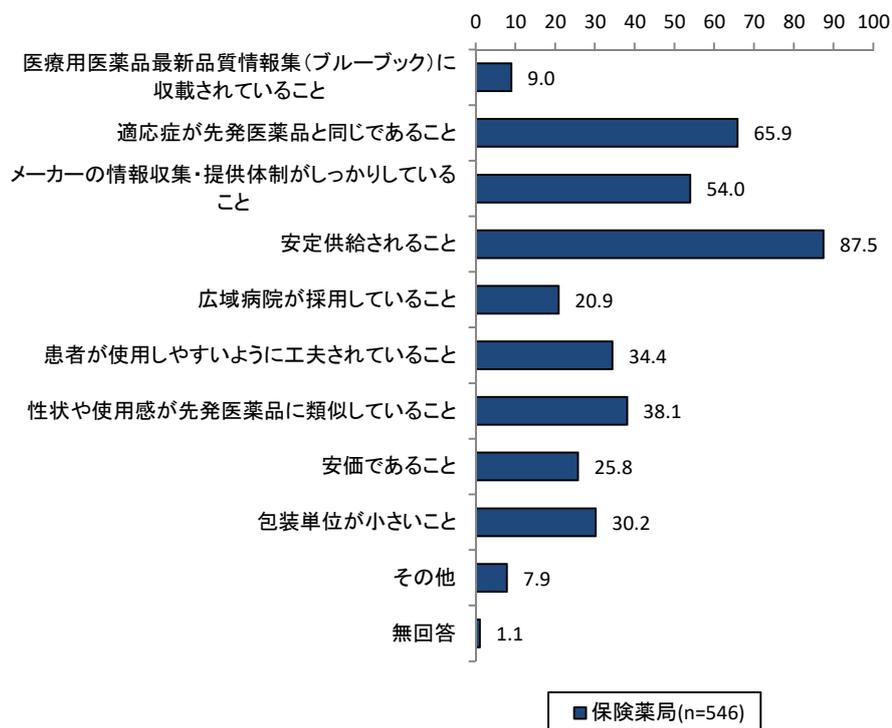


2. 後発医薬品の採用の方針、調剤の状況について

問9 後発医薬品を採用する際に、何を重視しますか。【複数回答可】

後発医薬品を採用する際に、何を重視するかについて、「安定供給されること」と回答した割合が87.5%と最も高く、次いで「適応症が先発医薬品と同じであること」(65.9%)、「メーカーの情報収集・提供体制がしっかりしていること」(54.0%)の順となっている。

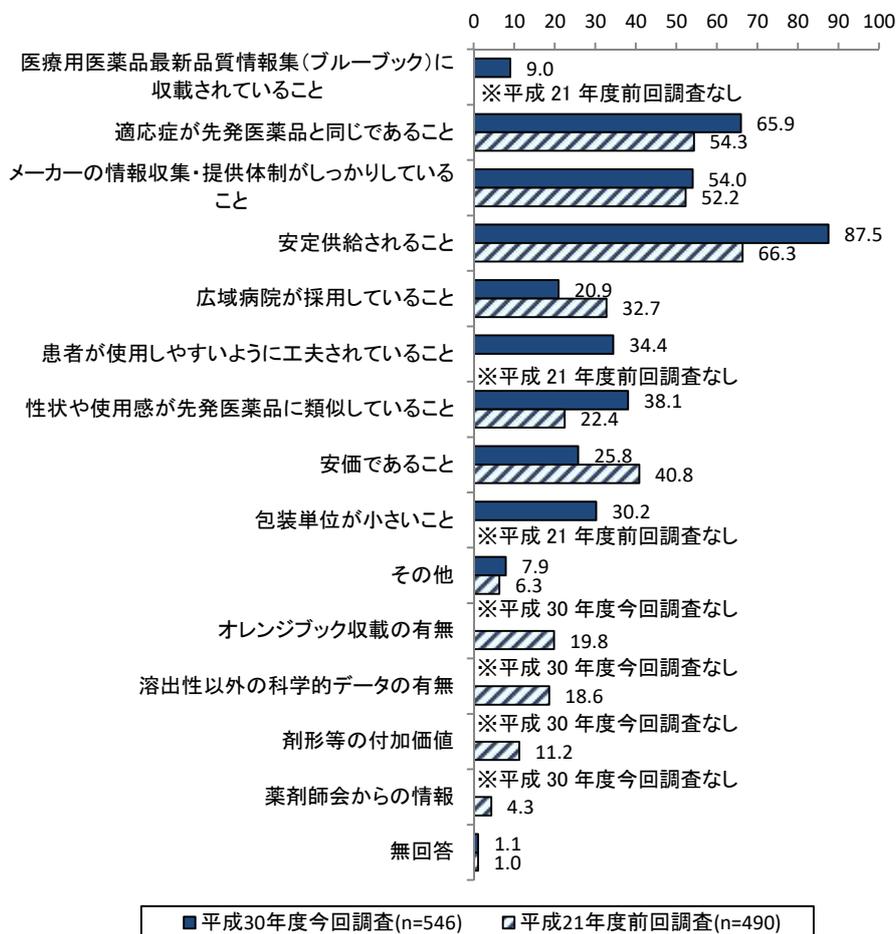
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「安定供給されること」が21.2ポイント高くなっている。

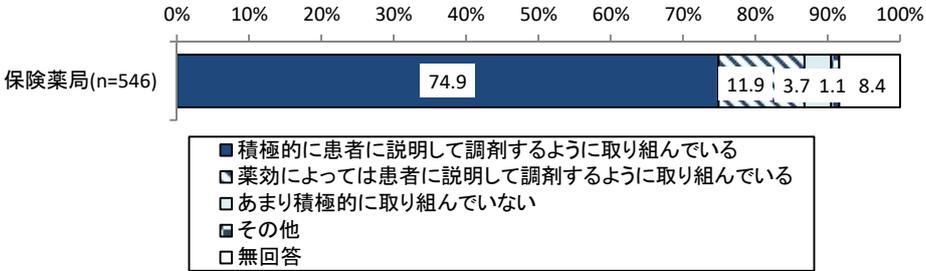
【経年比較 図】



問10 後発医薬品の調剤に関する取り組みとして、最も近いものはどれですか。

後発医薬品の調剤に関する取り組みについて、「積極的に患者に説明して調剤するように取り組んでいる」と回答した割合が74.9%と最も高く、次いで「薬効によっては患者に説明して調剤するように取り組んでいる」(11.9%)、「あまり積極的に取り組んでいない」(3.7%)の順となっている。

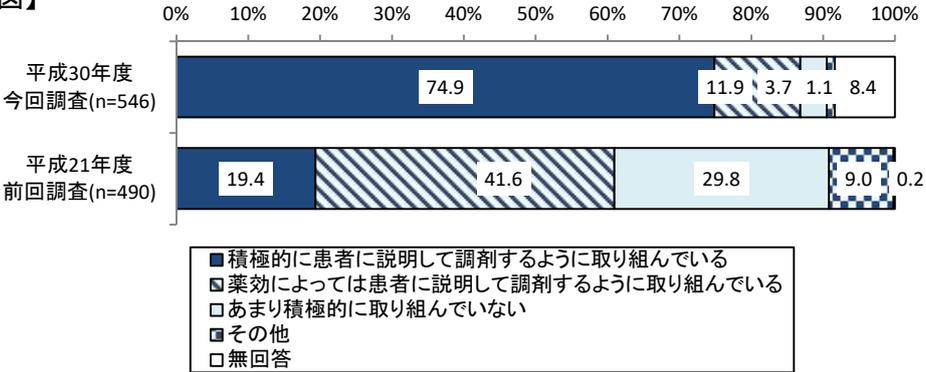
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「積極的に患者に説明して調剤するように取り組んでいる」が55.5ポイント高くなっている。

【経年比較 図】

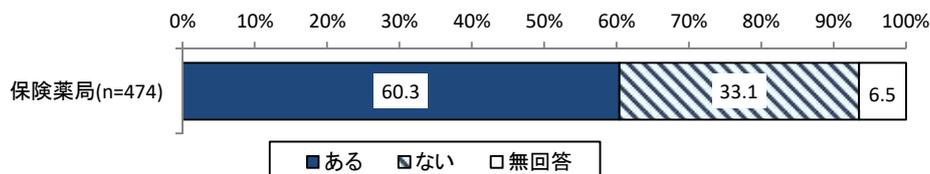


《問10で「1」、「2」を選んだ方へ》

問10-1 後発医薬品について不安はありますか。

後発医薬品についての不安の有無について、「ある」と回答した割合が60.3%、「ない」が33.1%となっている。

【全体 図】

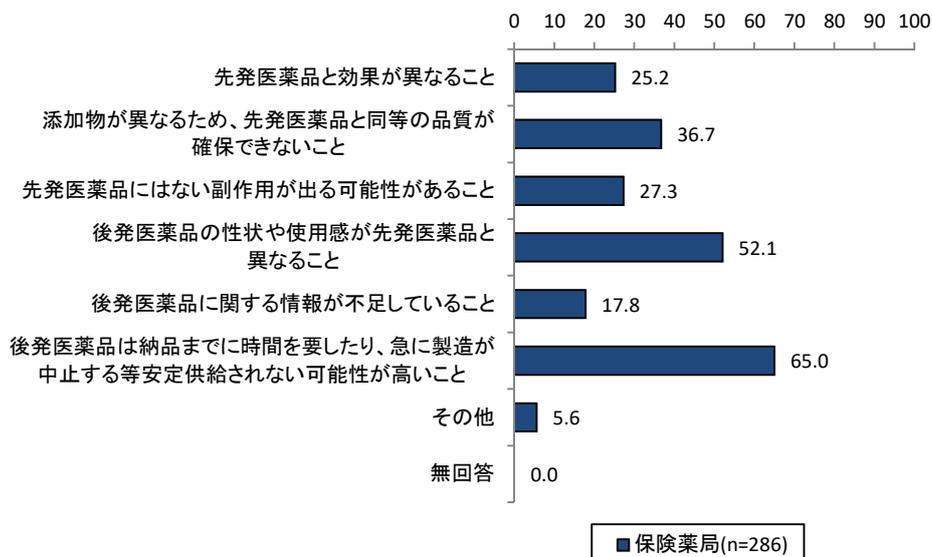


《問10-1で「1」を選んだ方へ》

問10-2 どういうことに不安を感じていますか。【複数回答可】

後発医薬品についてどういうことに不安を感じているかについて、「後発医薬品は納品までに時間を要したり、急に製造が中止する等安定供給されない可能性が高いこと」と回答した割合が65.0%と最も高く、次いで「後発医薬品の性状や使用感が先発医薬品と異なること」(52.1%)、「添加物が異なるため、先発医薬品と同等の品質が確保できないこと」(36.7%)の順となっている。

【全体 図】

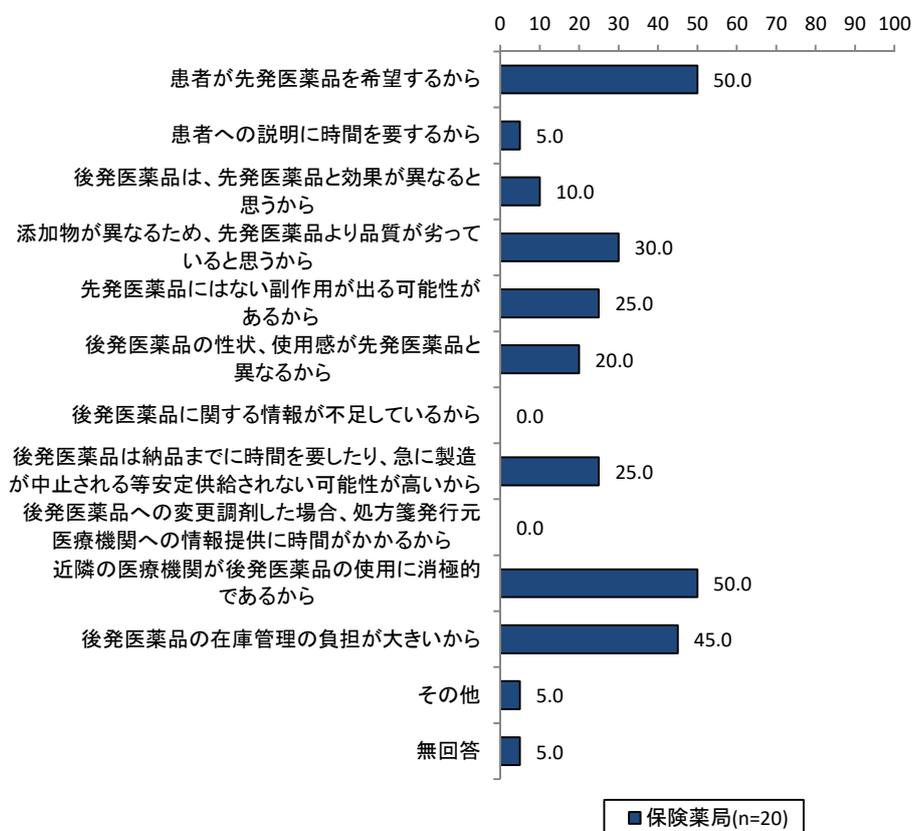


《問10で「3」を選んだ方へ》

問10-3 その理由は何ですか。【複数回答可】

後発医薬品の調剤をあまり積極的に取り組んでいない理由について、「患者が先発医薬品を希望するから」「近隣の医療機関が後発医薬品の使用に消極的であるから」と回答した割合が50.0%と最も高く、次いで「後発医薬品の在庫管理の負担が大きいから」(45.0%)、「添加物が異なるため、先発医薬品より品質が劣っていると思うから」(30.0%)の順となっている。

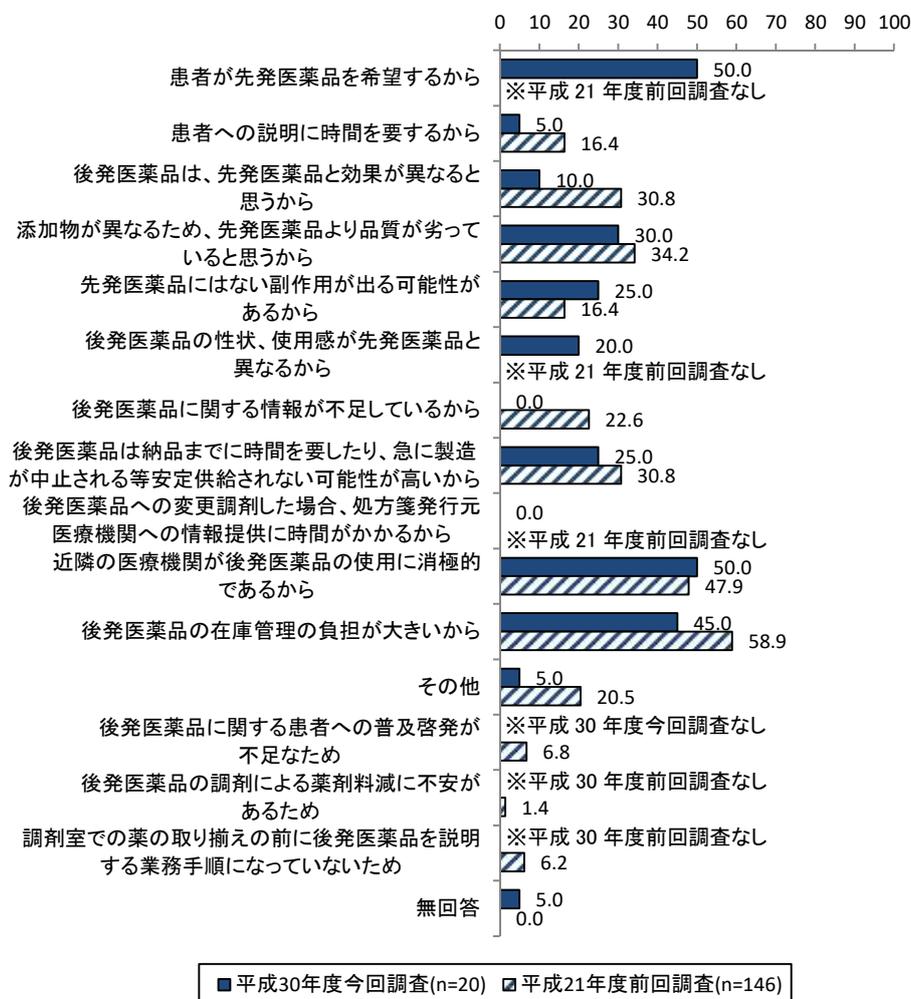
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「後発医薬品に関する情報が不足しているから」が22.6ポイント低くなっている。

【経年比較 図】

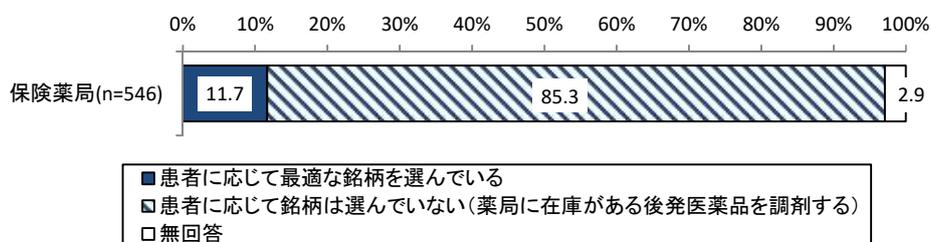


《すべての方へ》

問11 調剤時に後発医薬品の銘柄を選ぶときの状況についてお答えください。

調剤時に後発医薬品の銘柄を選ぶときの状況について、「患者に応じて最適な銘柄を選んでいる」と回答した割合が11.7%、「患者に応じて銘柄は選んでいない(薬局に在庫がある後発医薬品を調剤する)」が85.3%となっている。

【全体 図】

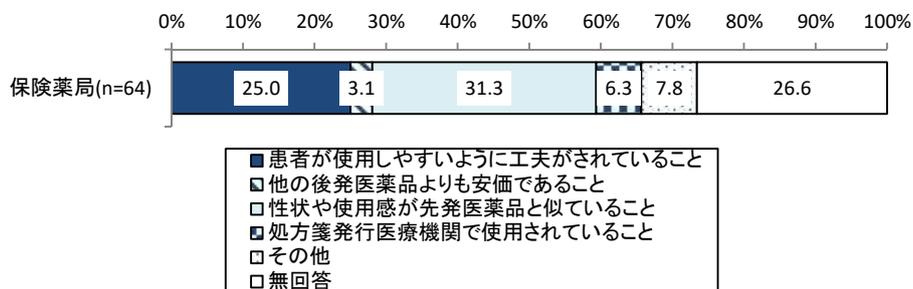


《問11で「1」を選んだ方へ》

問11-1 調剤時に後発医薬品の銘柄を選択する上で最も重視することはどれですか。

調剤時に後発医薬品の銘柄を選択する上で最も重視することについて、「性状や使用感が先発医薬品と似ていること」と回答した割合が31.3%と最も高く、次いで「患者が使用しやすいように工夫がされていること」(25.0%)、「処方箋発行医療機関で使用されていること」(6.3%)の順となっている。

【全体 図】

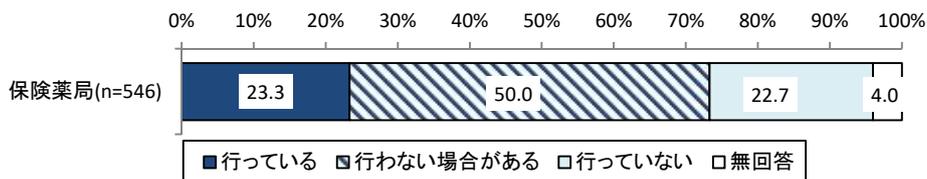


《すべての方へ》

問12 一般名処方の調剤又は後発医薬品への変更調剤した場合、実際に調剤した薬剤の銘柄について、処方箋発行元の医療機関に対して情報提供を行っていますか。

一般名処方の調剤又は後発医薬品への変更調剤した場合、実際に調剤した薬剤の銘柄について、処方箋発行元の医療機関に対して情報提供を行っているかについて、「行わない場合がある」と回答した割合が50.0%と最も高く、次いで「行っている」(23.3%)、「行っていない」(22.7%)の順となっている。

【全体 図】

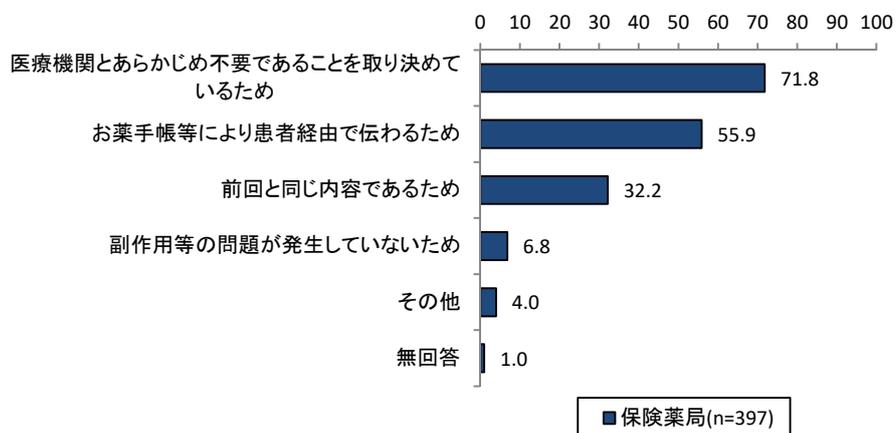


《問12で「2」、「3」を選んだ方へ》

問12-1 情報提供を行わない理由は何ですか。【複数回答可】

情報提供を行わない理由について、「医療機関とあらかじめ不要であることを取り決めているため」と回答した割合が71.8%と最も高く、次いで「お薬手帳等により患者経由で伝わるため」(55.9%)、「前回と同じ内容であるため」(32.2%)の順となっている。

【全体 図】

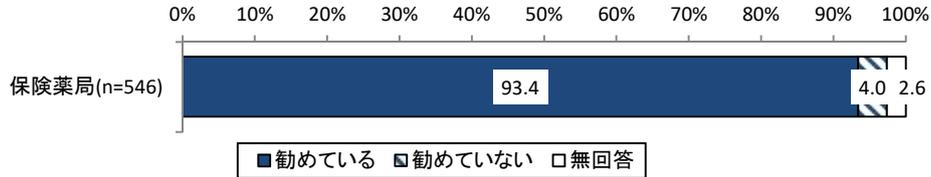


3. 後発医薬品と患者との関係について

問13 患者に後発医薬品を勧めていますか。

患者に後発医薬品を勧めているかについて、「勧めている」と回答した割合が93.4%、「勧めていない」が4.0%となっている。

【全体 図】

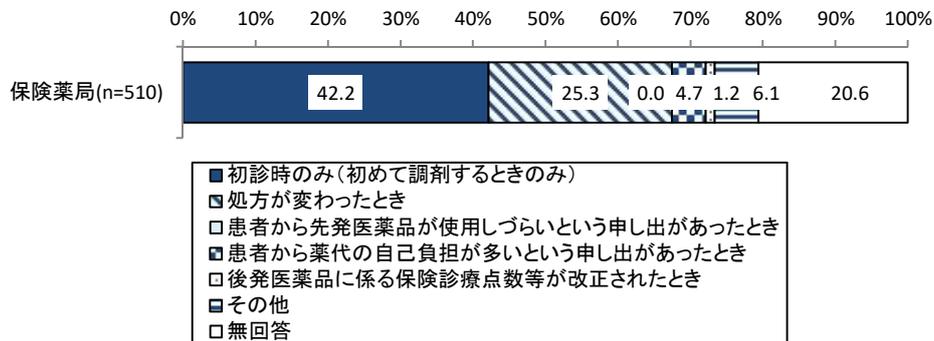


《問13で「1」を選んだ方へ》

問13-1 患者に後発医薬品を勧める機会として、最も多いものはどれですか。

患者に後発医薬品を勧める機会について、「初診時のみ（初めて調剤するときのみ）」と回答した割合が42.2%と最も高く、次いで「処方が変わったとき」（25.3%）、「患者から薬代の自己負担が多いという申し出があったとき」（4.7%）の順となっている。

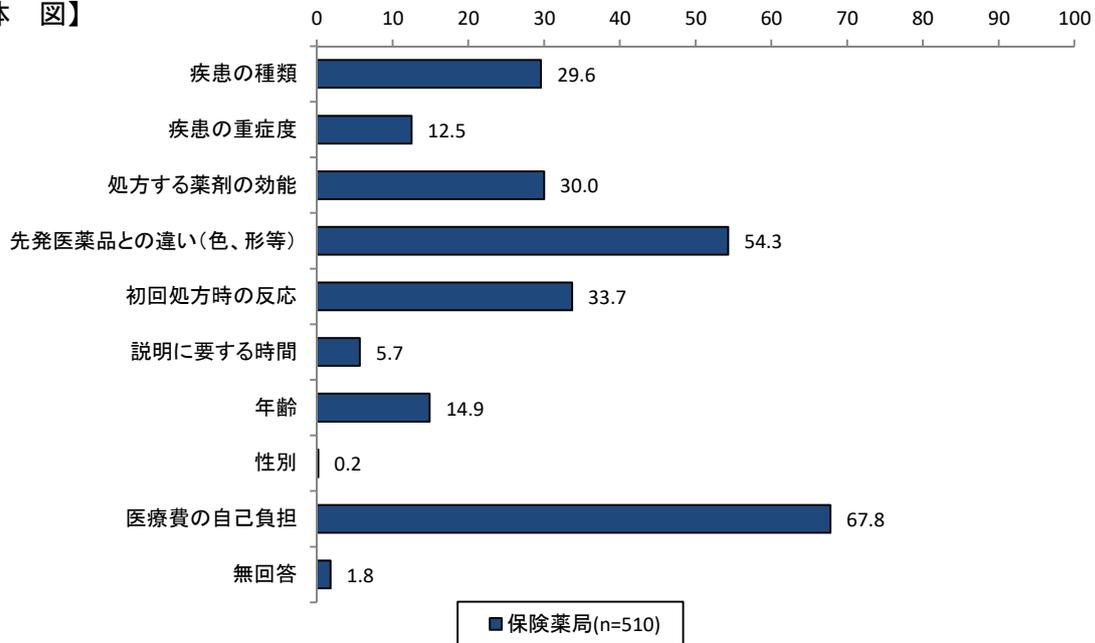
【全体 図】



問13-2 患者に後発医薬品を勧めるときに考慮する事項はどれですか。【複数回答可】

患者に後発医薬品を勧める時に考慮することについて、「医療費の自己負担」と回答した割合が67.3%と最も高く、次いで「先発医薬品との違い（色、形等）」（54.3%）、「初回処方時の反応」（33.7%）の順となっている。

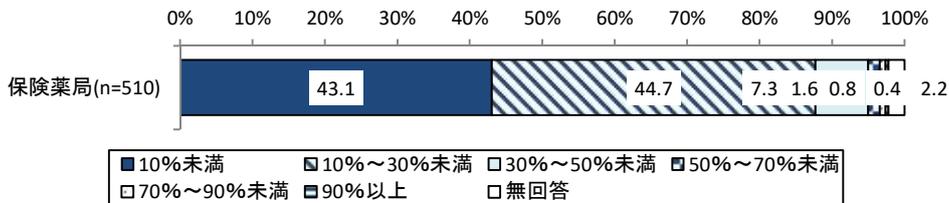
【全体 図】



問13-3 後発医薬品へ変更可能な処方箋を持参した患者のうち、説明しても変更を希望しない方の割合はどのくらいですか。

後発医薬品へ変更可能な処方箋を持参した患者のうち、説明しても変更を希望しない方の割合について、「10%～30%未満」と回答した割合が44.7%と最も高く、次いで「10%未満」(43.1%)、「30%～50%未満」(7.3%)の順となっている。

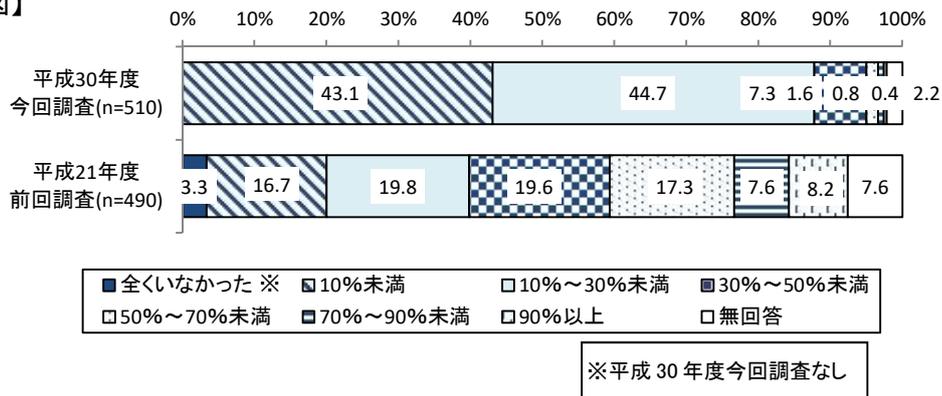
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「10%未満」が26.4ポイント高くなっている。

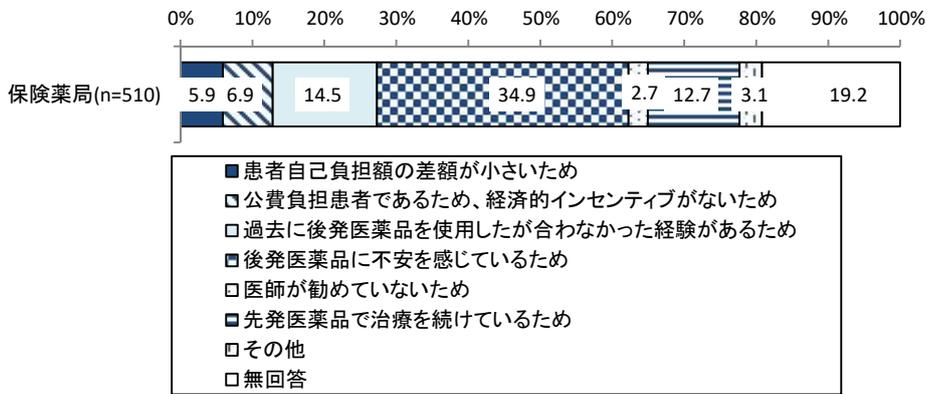
【経年比較 図】



問13-4 問13-3で患者が後発医薬品への変更を希望しなかった理由として最も多いものはどれですか。

患者が後発医薬品への変更を希望しなかった理由について、「後発医薬品に不安を感じているため」と回答した割合が34.9%と最も高く、次いで「過去に後発医薬品を使用したけど合わなかった経験があるため」(14.5%)、「先発医薬品で治療を続けているため」(12.7%)の順となっている。

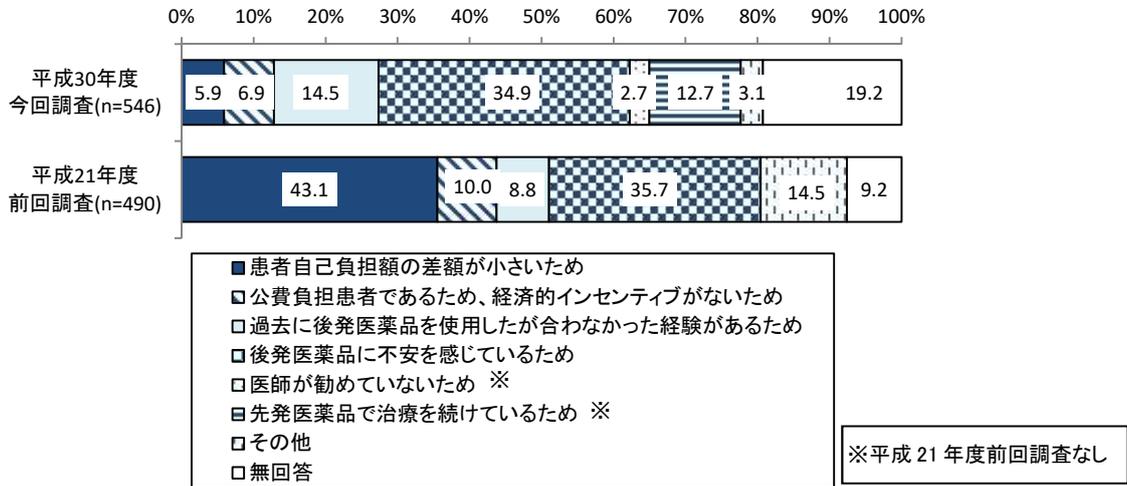
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「患者自己負担額の差額が小さいため」が37.2ポイント低くなっている。

【経年比較 図】

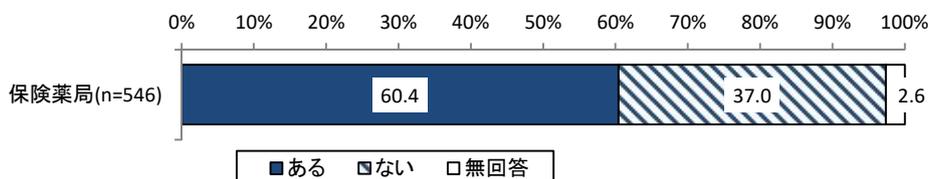


4. 後発医薬品の品質、供給等について

問14 後発医薬品の効果が、先発医薬品と異なった経験はありますか。

後発医薬品の効果が、先発医薬品と異なった経験があるかについて、「ある」と回答した割合が60.4%、「ない」が37.0%となっている。

【全体 図】

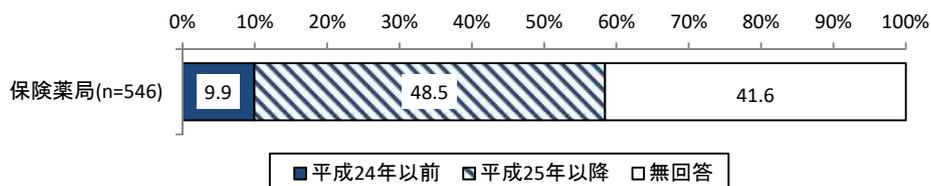


《問14で「1」を選んだ方へ》

問14-1 それはいつごろですか。

それはいつごろかについて、「平成24年以前」と回答した割合が9.9%、「平成25年以降」が48.5%となっている。

【全体 図】



《すべての方へ》

問15 納品までに時間を要したり、急に製造が中止される等後発医薬品が安定供給されなかった経験はありますか。

納品までに時間を要したり、急に製造が中止される等後発医薬品が安定供給されなかった経験があるかについて、「ある」と回答した割合が79.5%、「ない」が18.3%となっている。

【全体 図】

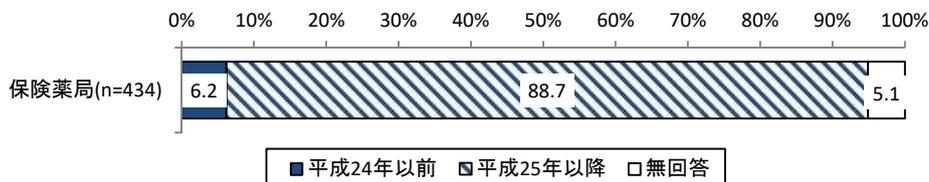


《問 15 で「1」を選んだ方へ》

問15-1 それはいつごろですか。

それはいつごろかについて、「平成 24 年以前」と回答した割合が 6.2%、「平成 25 年以降」が 88.7% となっている。

【全体 図】

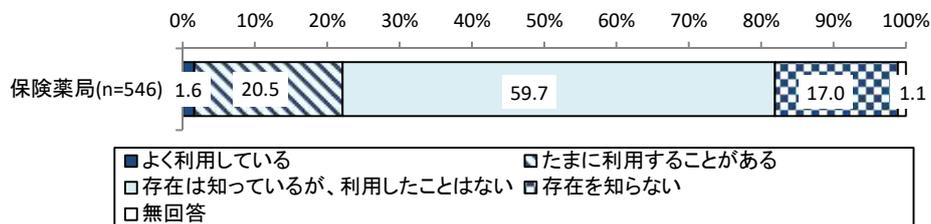


《すべての方へ》

問16 ジェネリック医薬品品質情報検討会が作成している医療用医薬品最新品質情報集(ブルーブック) <http://www.nihs.go.jp/drug/ecqaged.html> を利用したことはありますか。

ジェネリック医薬品品質情報検討会が作成している医療用医薬品最新品質情報集(ブルーブック)の利用について、「存在は知っているが、利用したことはない」と回答した割合が 59.7%と最も高く、次いで「たまに利用することがある」(20.5%)、「存在を知らない」(17.0%)の順となっている。

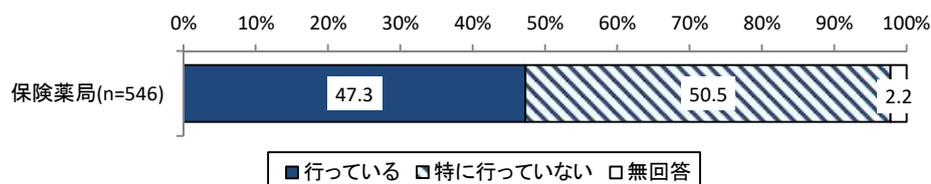
【全体 図】



問17 後発医薬品の使用に関する取り組みや工夫を行っていますか。

後発医薬品の使用に関する取り組みや工夫を行っているかについて、「行っている」と回答した割合が 47.3%、「特に行っていない」が 50.5%となっている。

【全体 図】

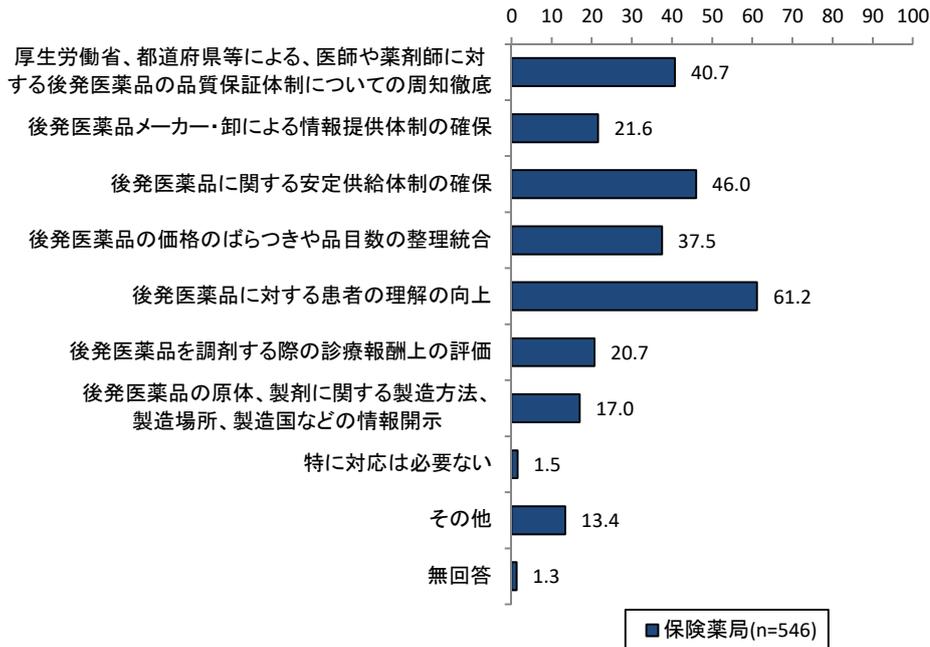


問18 今後、どのような対応がなされれば、後発医薬品の調剤を進めることができると思いますか。

【複数回答可】

今後、どのような対応がなされれば、後発医薬品の調剤を進めることができると思うかについて、「後発医薬品に対する患者の理解の向上」と回答した割合が61.2%と最も高く、次いで「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」(46.0%)、「厚生労働省、都道府県等による、医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証体制についての周知徹底」(40.7%)の順となっている。

【全体 図】



3. 患者県民アンケート

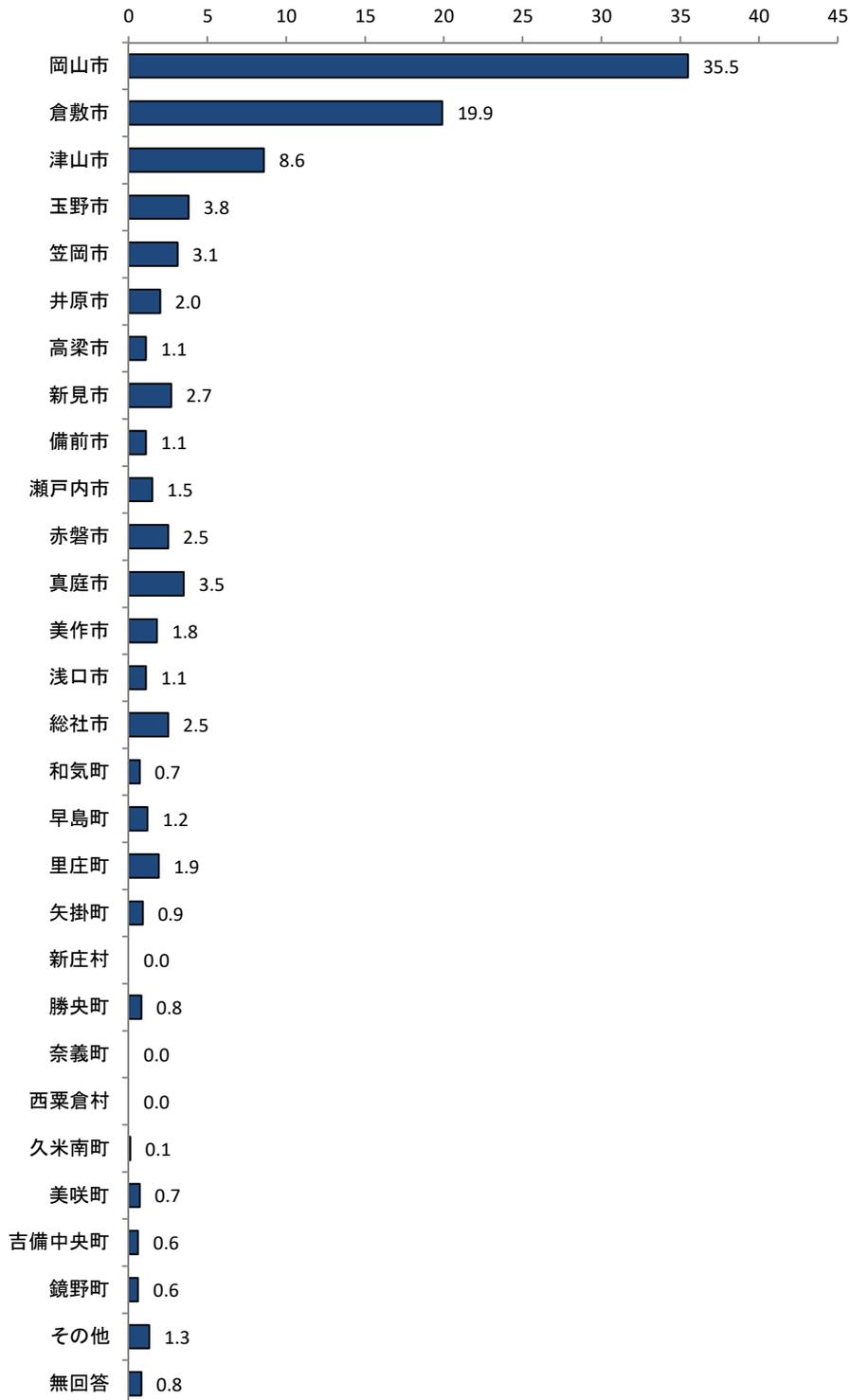
回答者について

問1 お住まいの市町村名・年齢・性別・加入医療保険・お薬代の自己負担

①お住まいの市町村名

施設の所在地について、「岡山市」と回答した割合が35.5%と最も高く、次いで「倉敷市」(19.9%)、「津山市」(8.6%)の順となっている。

【全体 図】

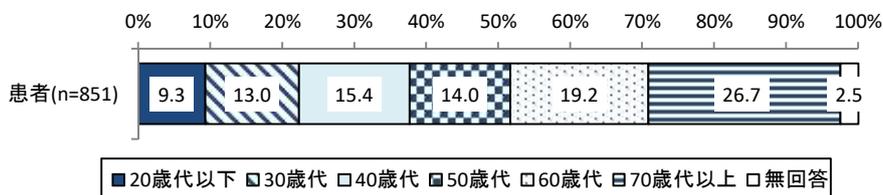


■ 患者(n=851)

②年齢

年齢について、「70歳代以上」と回答した割合が26.7%と最も高く、次いで「60歳代」(19.2%)、「40歳代」(15.4%)の順となっている。

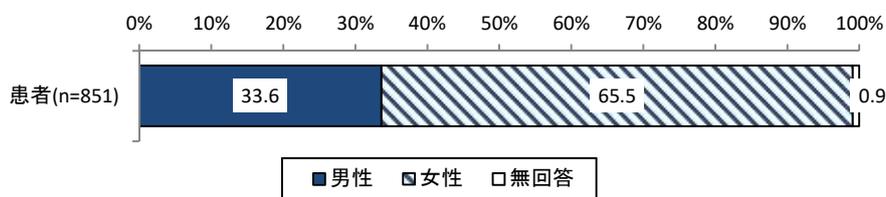
【全体 図】



③性別

性別について、「男性」と回答した割合が33.6%、「女性」が65.5%となっている。

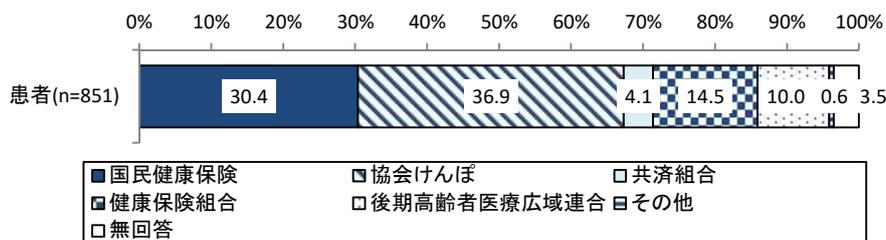
【全体 図】



④加入医療保険

加入医療保険について、「協会けんぽ」と回答した割合が36.9%と最も高く、次いで「国民健康保険」(30.4%)、「健康保険組合」(14.5%)の順となっている。

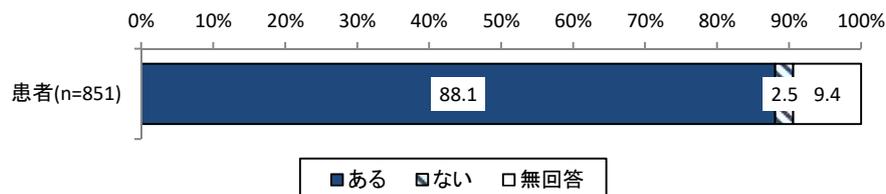
【全体 図】



⑤お薬代の自己負担

お薬代の自己負担について、「ある」と回答した割合が88.1%、「ない」が2.5%となっている。

【全体 図】

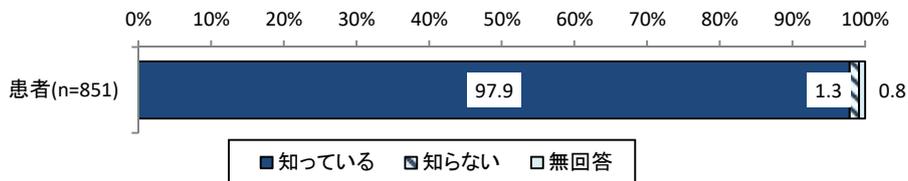


1. ジェネリック医薬品の認知度について

問2 ジェネリック医薬品を知っていますか。

ジェネリック医薬品を知っているかについて、「知っている」と回答した割合が 97.9%、「知らない」が 1.3%となっている。

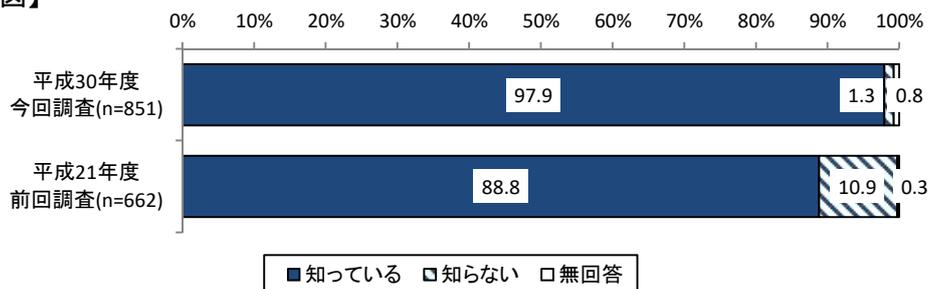
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成 30 年度今回調査』は『平成 21 年度前回調査』に比べて、「知らない」が 9.6 ポイント低くなっている。

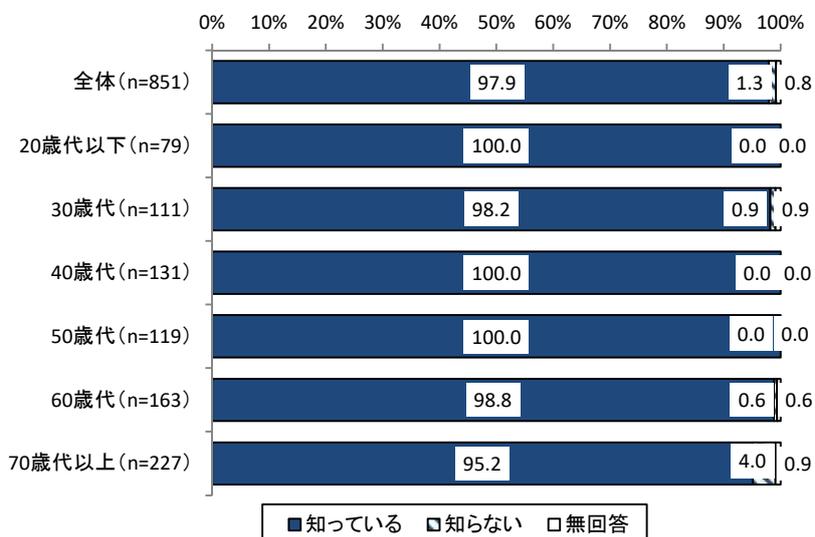
【経年比較 図】



【年齢別】

年齢別でみると、『50 歳代』から『70 歳以上』にかけて年齢が上がるにつれて、「知らない」が高くなっている。

【年齢別 図】

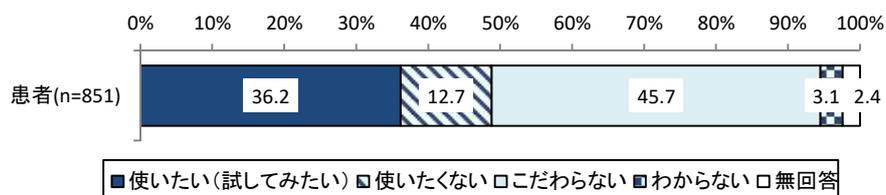


2. ジェネリック医薬品の使用について

問3 ジェネリック医薬品を使うことについて、どのようにお考えですか。

ジェネリック医薬品を使うことについて、どのように考えるかについて、「こだわらない」と回答した割合が45.7%と最も高く、次いで「使いたい（試してみたい）」(36.2%)、「使いたくない」(12.7%)の順となっている。

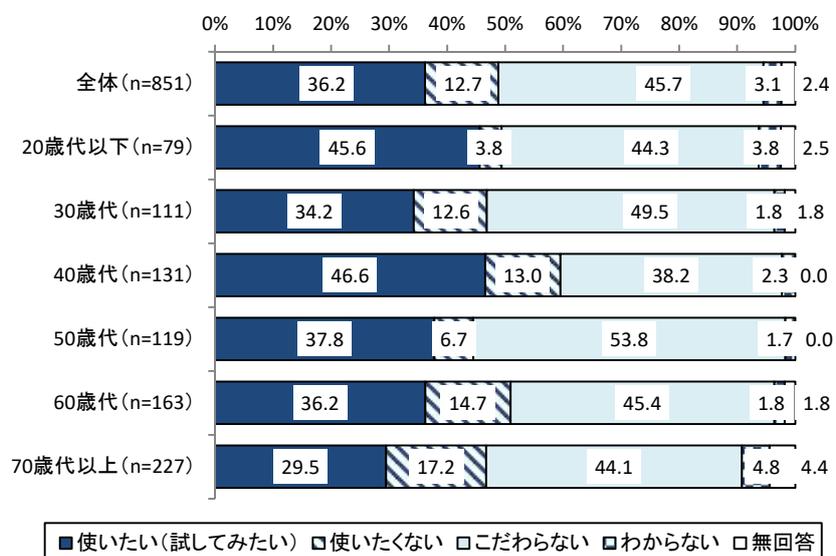
【全体 図】



【年齢別】

年齢別で見ると、『40歳代』から『70歳以上』にかけて年齢が上がるにつれて、「使いたい（試してみたい）」が低くなっている。

【年齢別 図】

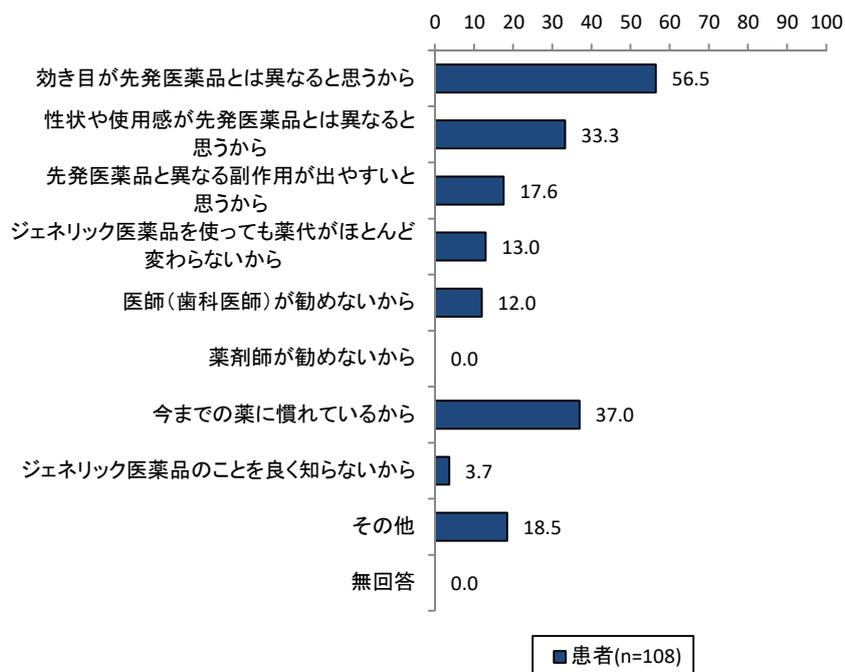


《問3で「2」を選んだ方へ》

問3-1 使いたくない理由は何ですか。【該当するものすべてに○】

ジェネリック医薬品を使いたくない理由について、「効き目が先発医薬品とは異なると思うから」と回答した割合が56.5%と最も高く、次いで「今までの薬に慣れているから」(37.0%)、「性状や使用感が先発医薬品とは異なると思うから」(33.3%)の順となっている。

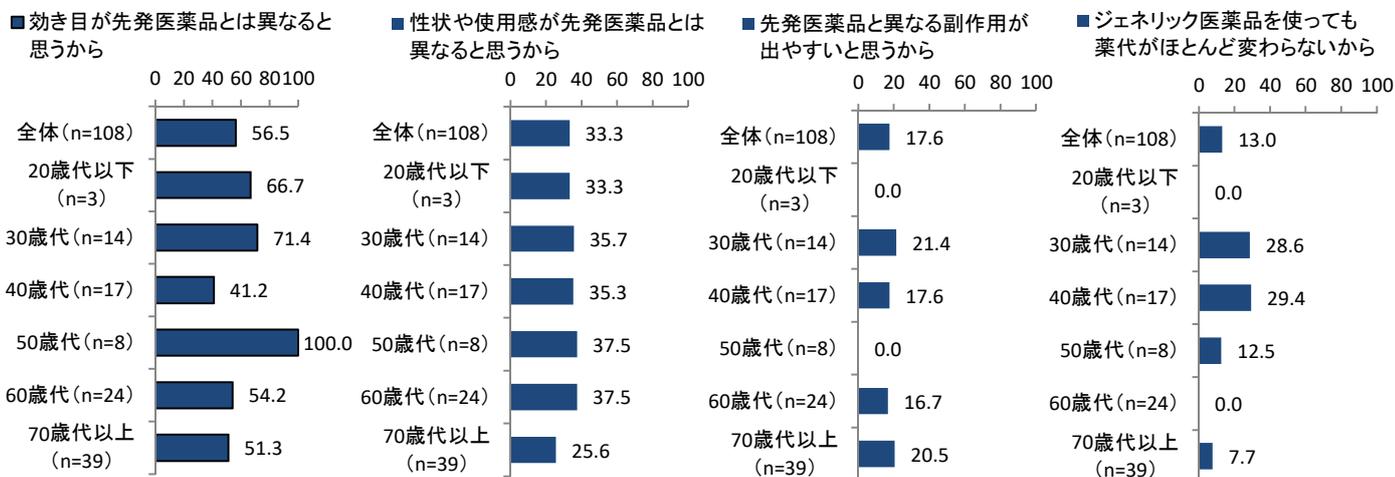
【全体 図】

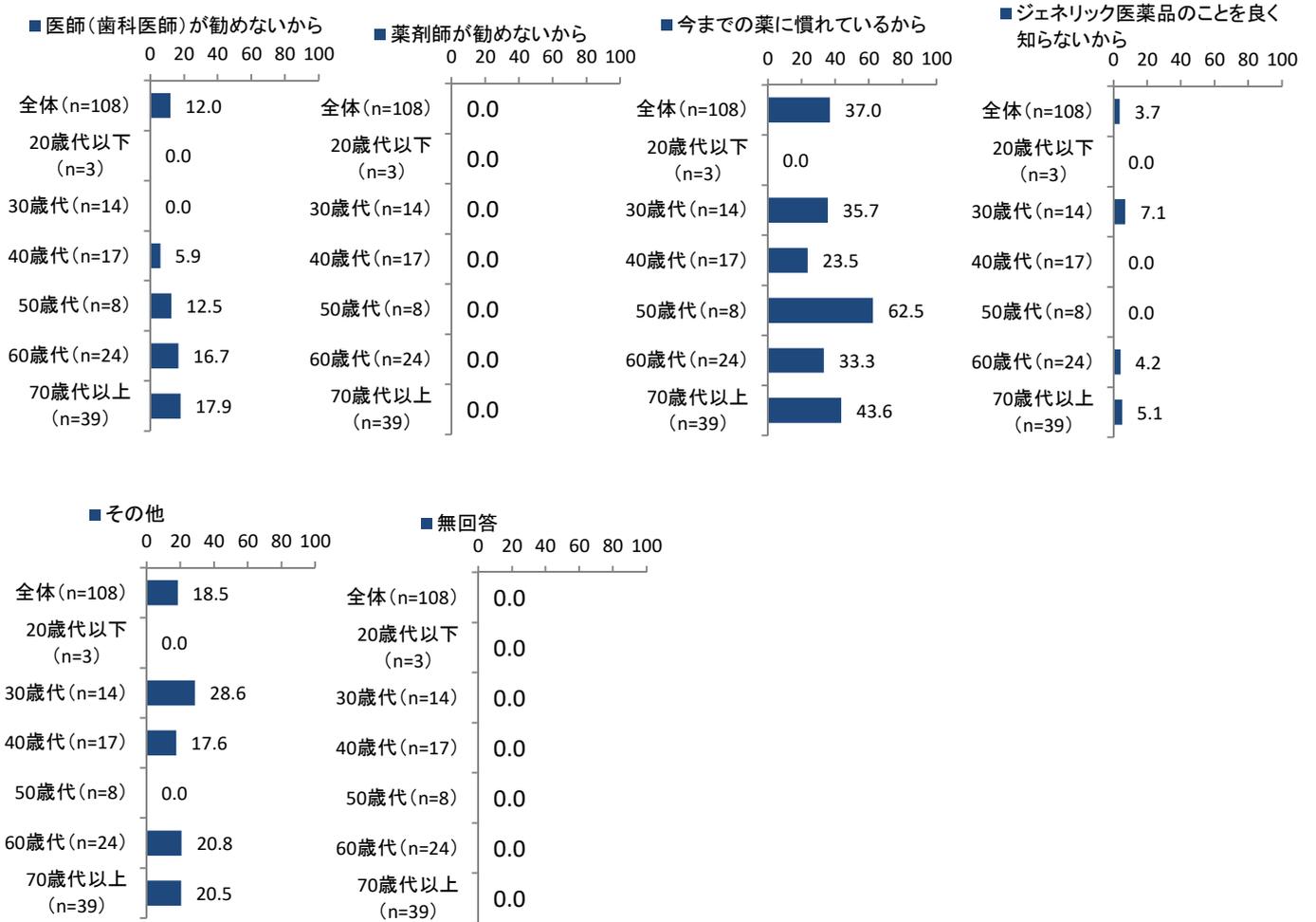


【年齢別】

年齢別でみると、『20歳代以下』から『70歳以上』にかけて年齢が上がるにつれて、「医師(歯科医師)が勧めないから」が高くなっている。

【年齢別 図】

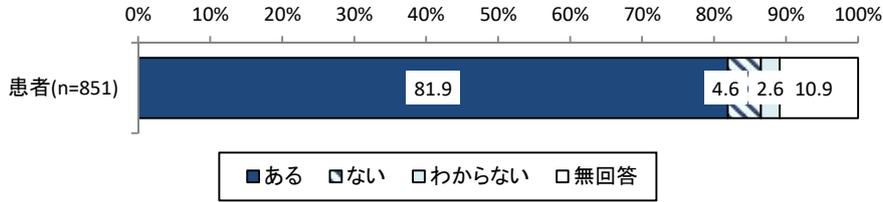




問4 ジェネリック医薬品を使ったことはありますか。

ジェネリック医薬品を使ったことはあるかについて、「ある」と回答した割合が 81.8%と最も高く、次いで「ない」(4.6%)、「わからない」(2.6%)の順となっている。

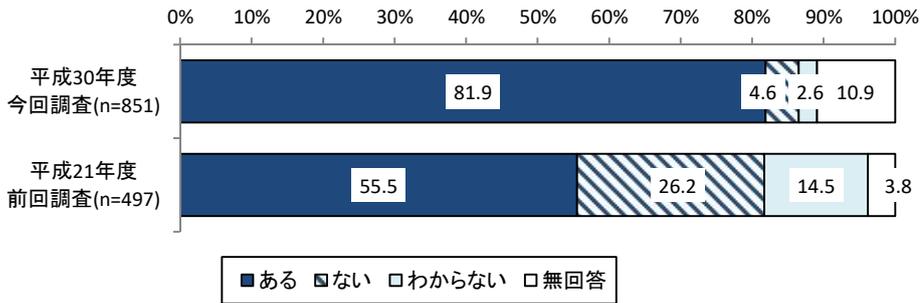
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成 30 年度今回調査』は『平成 21 年度前回調査』に比べて、「ある」が 26.4 ポイント高くなっている。

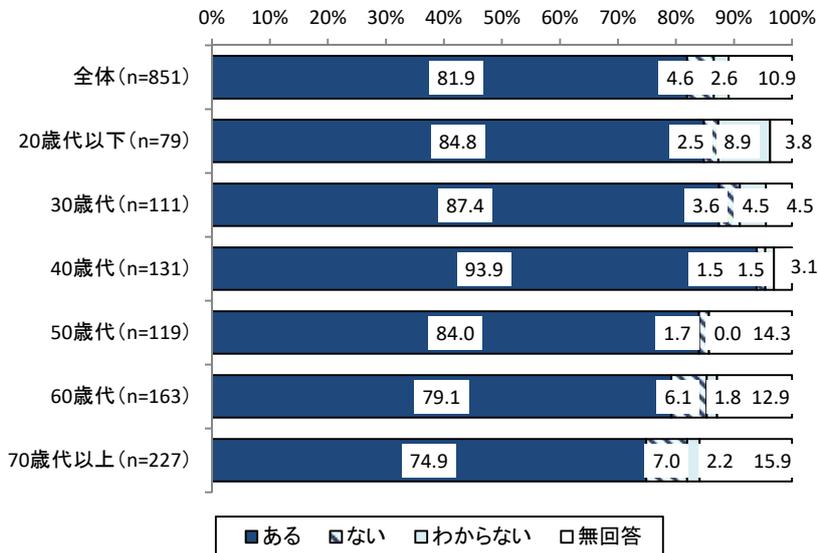
【経年比較 図】



【年齢別】

年齢別でみると、『40 歳代』から『70 歳以上』にかけて年齢が上がるにつれて、「ある」が低くなっている。

【年齢別 図】

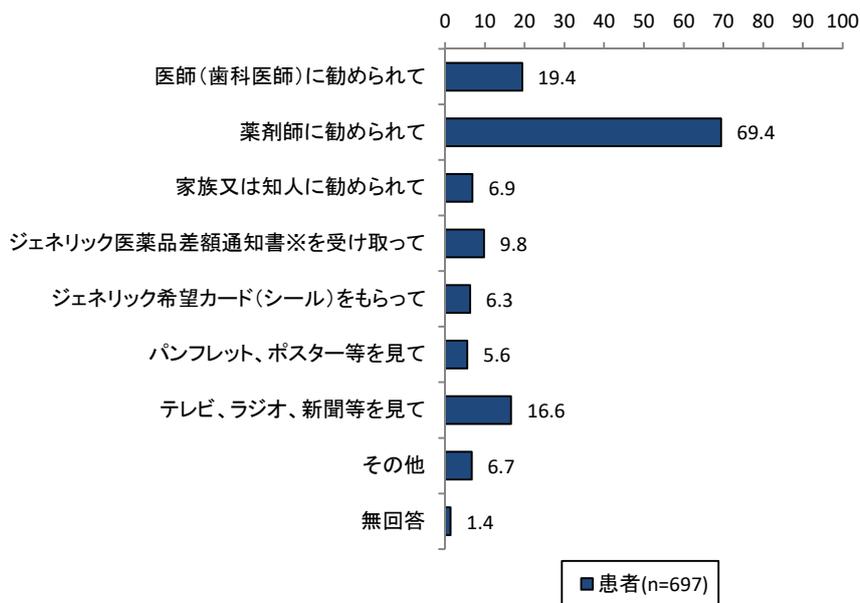


《問4で「1」を選んだ方へ》

問4-1 ジェネリック医薬品を使用したきっかけは何ですか。【該当するものすべてに○】

ジェネリック医薬品を使ったきっかけについて、「薬剤師に勧められて」と回答した割合が 69.4%と最も高く、次いで「医師（歯科医師）に勧められて」（19.4%）、「テレビ、ラジオ、新聞等を見て」（16.6%）の順となっている。

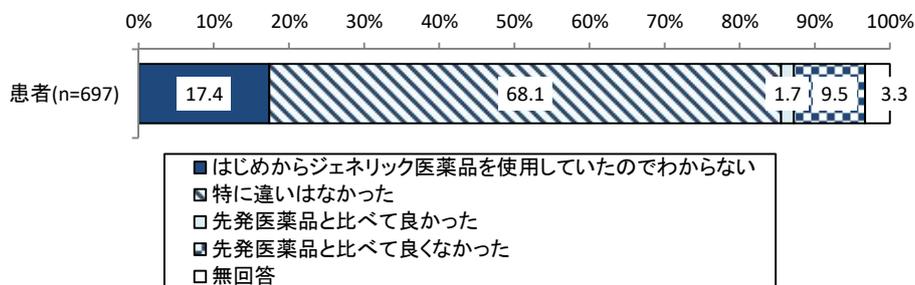
【全体 図】



問4-2 先発医薬品との違いはありましたか。

先発医薬品との違いについて、「特に違いはなかった」と回答した割合が 68.1%と最も高く、次いで「はじめからジェネリック医薬品を使用していたのでわからない」（17.4%）、「先発医薬品と比べて良くなかった」（9.5%）の順となっている。

【全体 図】

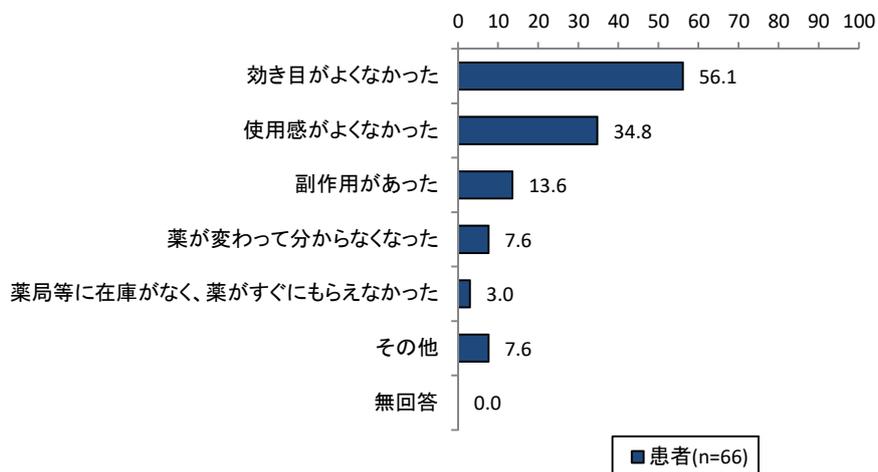


《問4-2で「4」を選んだ方へ》

問4-3 良くなかった点は何ですか。【該当するものすべてに○】

良くなかった点について、「効き目がよくなかった」と回答した割合が56.1%と最も高く、次いで「使用感がよくなかった」(34.8%)、「副作用があった」(13.6%)の順となっている。

【全体 図】

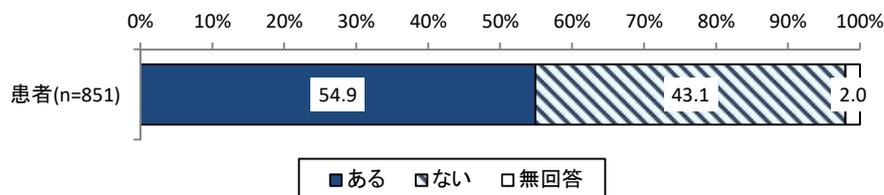


《すべての方へ》

問5 病院・診療所や薬局で先発医薬品の代わりにジェネリック医薬品を希望したことはありますか。

病院・診療所や薬局で先発医薬品の代わりにジェネリック医薬品を希望したことはあるかについて、「ある」と回答した割合が54.9%、「ない」が43.1%となっている。

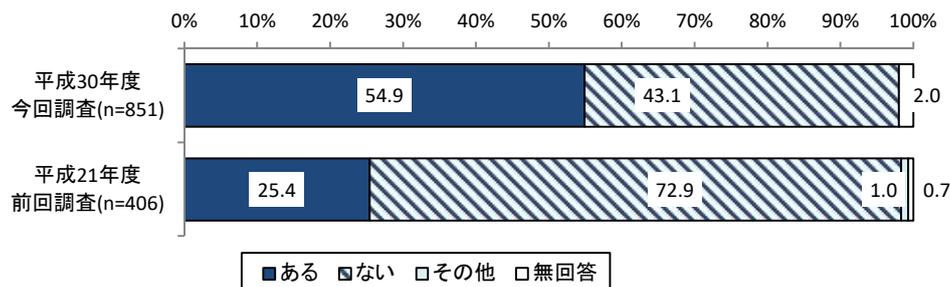
【全体 図】



【経年比較】

経年比較でみると、『平成30年度今回調査』は『平成21年度前回調査』に比べて、「ない」が29.8ポイント低くなっている。

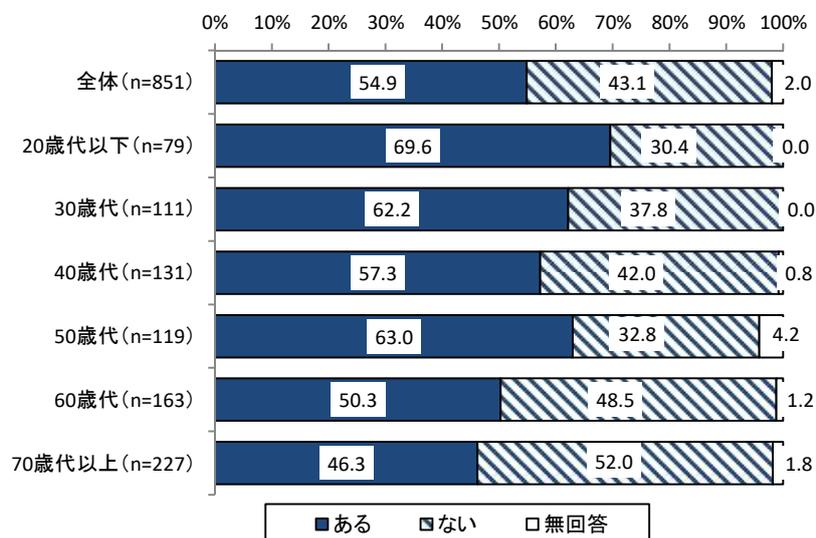
【経年比較 図】



【年齢別】

年齢別でみると、『50歳代』から『70歳以上』にかけて年齢が上がるにつれて、「ある」が低くなっている。

【年齢別 図】

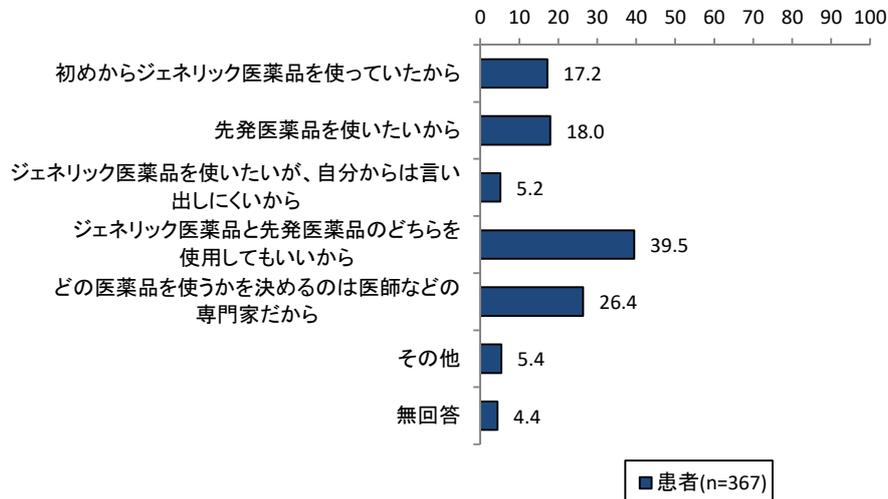


《問5で「2」を選んだ方へ》

問5-1 希望したことがない理由は何ですか。【該当するものすべてに○】

希望したことがない理由について、「ジェネリック医薬品と先発医薬品のどちらを使用してもいいから」と回答した割合が39.5%と最も高く、次いで「どの医薬品を使うかを決めるのは医師などの専門家だから」(26.4%)、「先発医薬品を使いたいから」(18.0%)の順となっている。

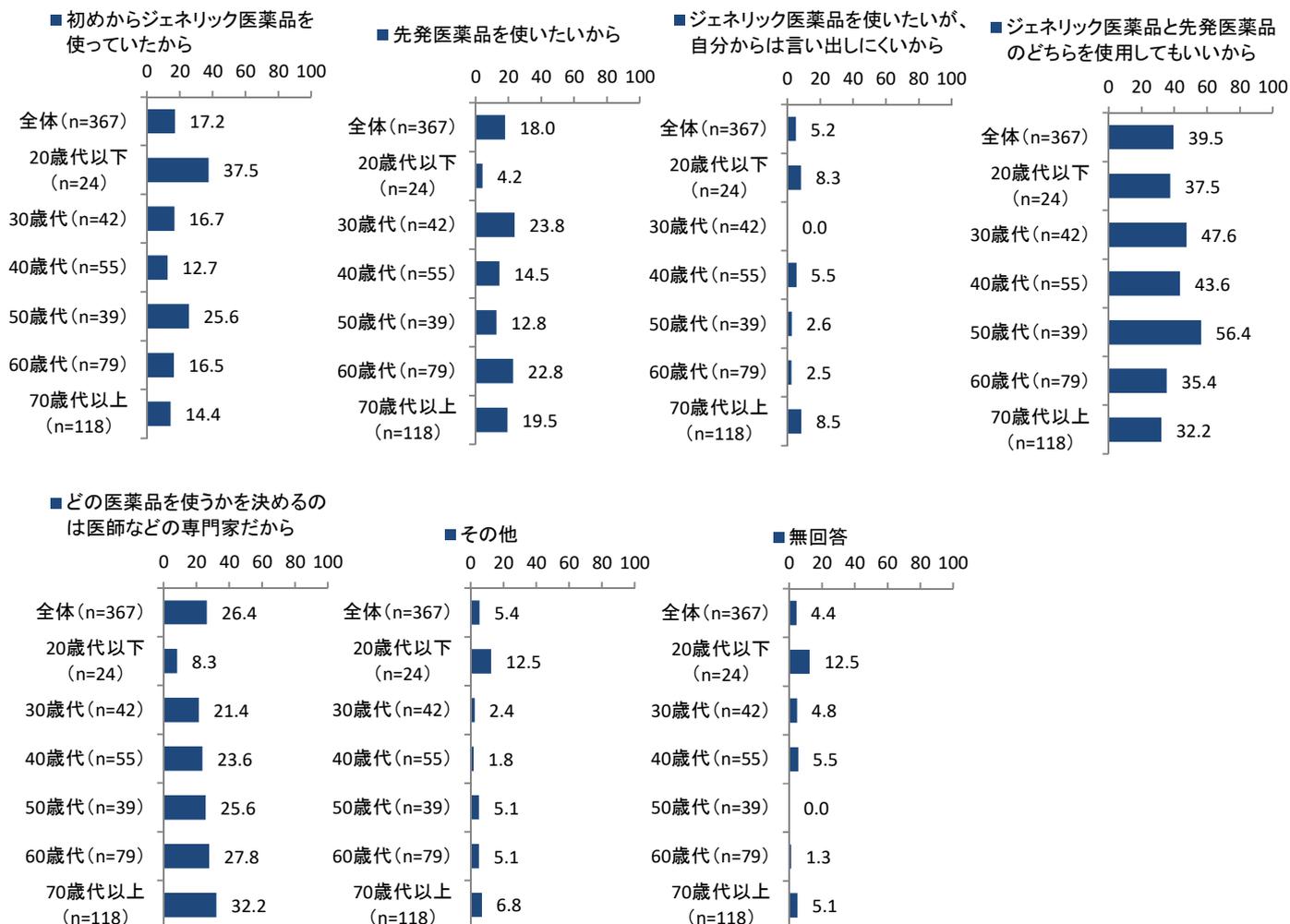
【全体 図】



【年齢別】

年齢別でみると、『30歳代以下』から『70歳以上』にかけて年齢が上がるにつれて、「どの医薬品を使うかを決めるのは医師などの専門家だから」が高くなっている。

【年齢別 図】

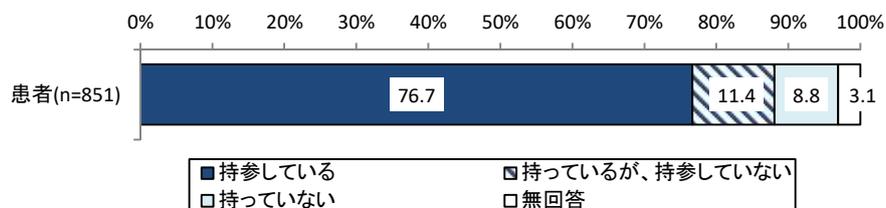


3. お薬手帳について

問6 病院・診療所、薬局に行く際に、お薬手帳を持参していますか。

病院・診療所、薬局に行く際に、お薬手帳を持参しているかについて、「持参している」と回答した割合が76.7%と最も高く、次いで「持っているが、持参していない」(11.4%)、「持っていない」(8.8%)の順となっている。

【全体 図】

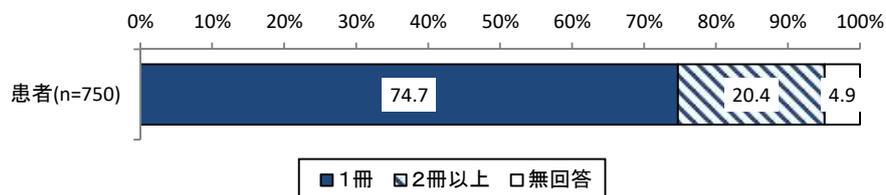


《問6で「1」、「2」を選んだ方へ》

問6-1 現在使用しているお薬手帳は何冊ですか。

現在使用しているお薬手帳について、「1冊」と回答した割合が74.7%、「2冊以上」が20.4%となっている。

【全体 図】



4. 自由記載欄に寄せられた主な意見

医療関係者(病院・診療所・歯科診療所)

- ・先発医薬品に対応する後発医薬品の銘柄が多すぎるし、名称も分かりにくいものが多い。
- ・後発医薬品の効能、効果、副作用等安全に対する情報が不足している。
- ・後発医薬品メーカーの信頼性について情報が不足している。
- ・後発医薬品メーカーによって品質・効果にばらつきがあり、安全性に不安がある。
- ・先発医薬品と後発医薬品で適応症が異なる場合があるため、処方しづらい。
- ・後発医薬品の効果が先発医薬品に及ばず、副作用の発現が見られる場合もある。
- ・後発医薬品は発売終了など、長期間の安定供給が難しい場合が多い。
- ・後発医薬品を使用し、不都合が生じた場合の負担が大きい。
- ・新薬の開発などに支障が生じる可能性を考えると、後発医薬品増加に不安がある。
- ・オーソライズドジェネリックを普及させて欲しい。

薬局(保険薬局)

- ・患者や医療関係者への情報提供をもっと行って欲しい。
- ・先発医薬品と後発医薬品の性状、効果、使用感が異なるため、勧めにくい。
- ・医師が患者に後発医薬品を勧めない場合がある。
- ・患者に後発医薬品に対する不安があり、先発医薬品を要望される。
- ・患者が先発医薬品処方の継続を望むことがある。
- ・後発医薬品メーカーが多すぎ、在庫の管理に困ることがある。
- ・先発医薬品と後発医薬品の適応症を同等にして欲しい。
- ・先発医薬品の薬価を後発医薬品と同等にして欲しい。
- ・後発医薬品の安定供給に不安がある。
- ・後発医薬品の使用により副作用が生じ、先発医薬品に戻す場合がある。
- ・オーソライズドジェネリックをもっと拡げて欲しい。
- ・患者の理解は深まってきている様に思う。

患者県民

- ・医師や薬剤師の処方に任せているし、自分からは言いにくい。
- ・医師や薬剤師によって意見が異なる。
- ・後発医薬品の方が経済的に助かるので、効果に差がないなら、後発医薬品でもよい。
- ・後発医薬品について不安はあるが、安価なので使用している。
- ・先発医薬品と後発医薬品の違いなど、情報が不足していて使用を躊躇する場合がある。
- ・後発医薬品が多すぎるし、名前も分かりにくい。
- ・先発医薬品と後発医薬品では効果に違いを感じる。
- ・後発医薬品に対して不安を煽るような情報が多いと感じる。
- ・先発医薬品との性状の違いや、効果に疑問がある。
- ・急に製造中止になるものもあるので不安がある。
- ・錠剤の包装を簡易にしたり、飲み易さを改善して欲しい。